

2025 年度卒後進路の検討・選択の状況に関する調査 結果まとめ

対象者数： 2025 年度在籍の学部 2・3・4 年生（計 3,999 名）

回答数（率）： 1,812 名（回答率 45.3%）

2 年生：664 名/1,318（回答率 50.4%）

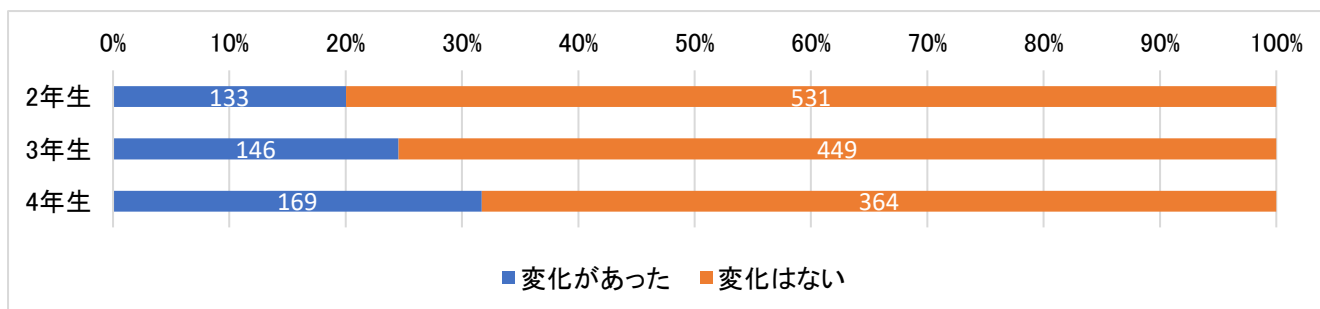
3 年生：595 名/1,339（回答率 44.4%）

4 年生：533 名/1,342（回答率 39.7%）

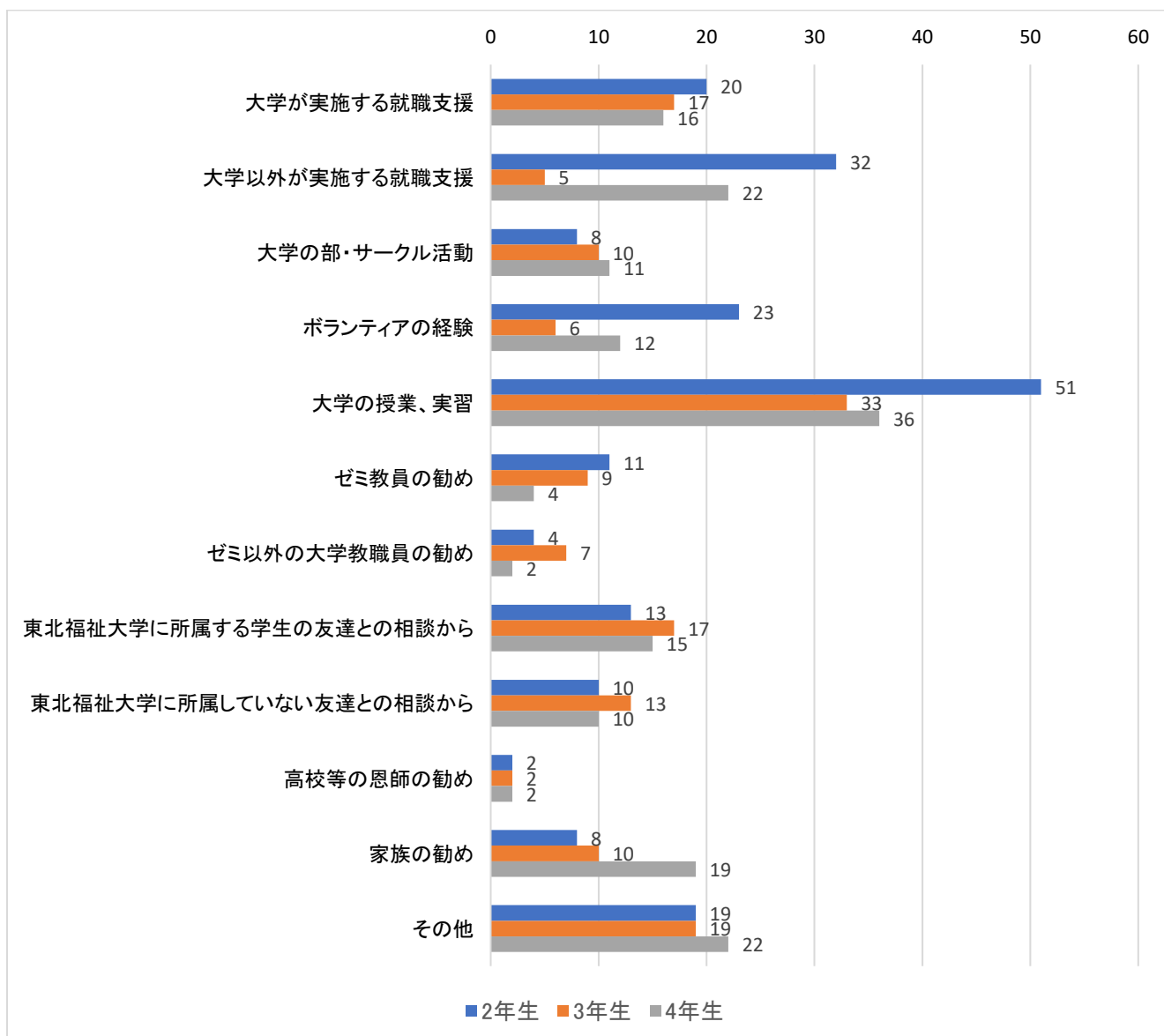
* 学年の選択がない回答があったため、全体の回答数と学年ごとの回答数の合計は一致していない。

I. 全学の傾向

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？



2. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？ (人)

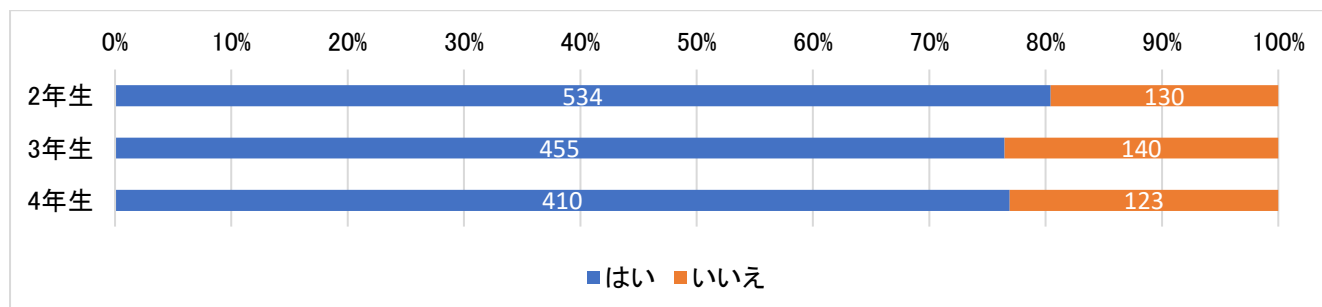


<コメント>

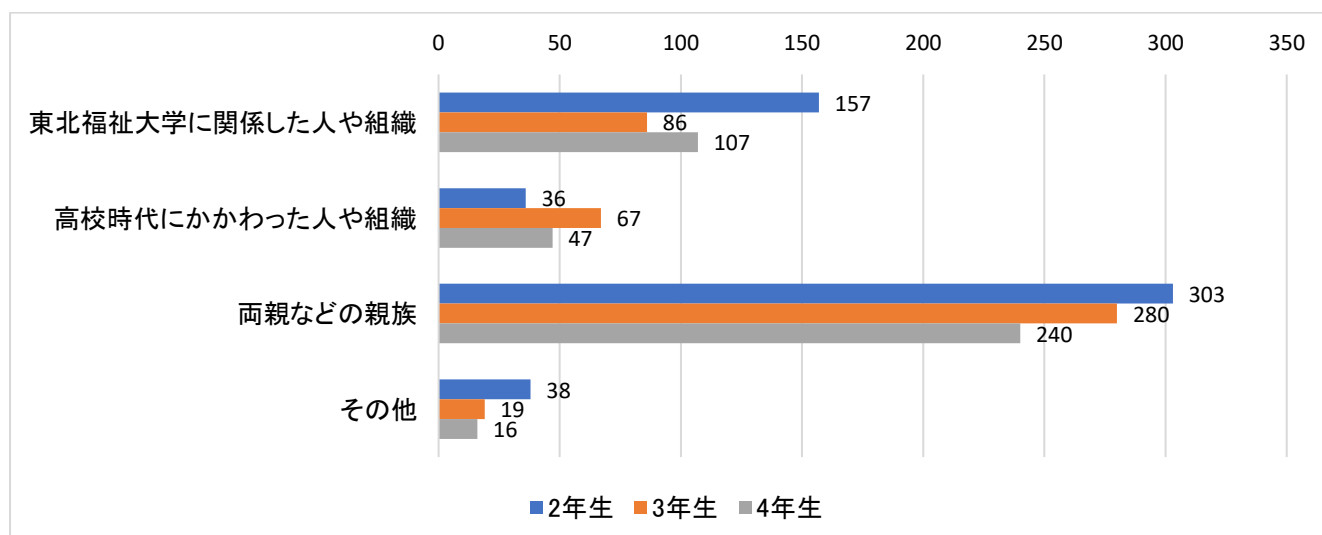
◆入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 25.0%であった。学年別にみると、4 年生が 31.7%と高く、つぎに 3 年生 24.5%、2 年生 20.0%の順であった。学年が上がるにつれて進路に変化が生じる学生が多いことが分かる。

◆進路に「変化があった」学生に着目すると、進路変更のきっかけとなったものとして、最も割合が高かった(その他を除く)のは「大学の授業、実習」で 26.5%、つぎに「大学以外が実施する就職支援」13.0%、「大学が実施する就職支援」11.7%であった。「大学の授業、実習」が進路変更のきっかけとなった学生は 2 年生に多い。また、「家族の勧め」が進路変更のきっかけとなった学生は 4 年生に多い。

3. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか（または、相談したいか）？



4. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？（人）



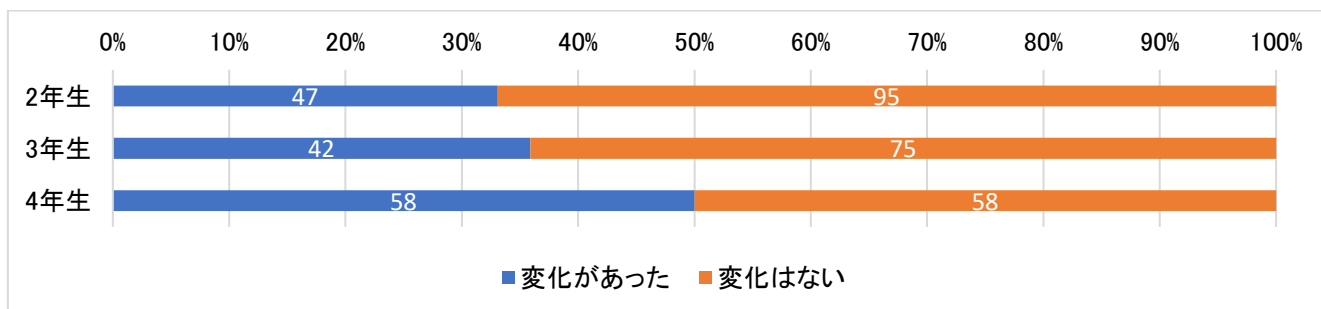
<コメント>

- ◆進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談した学生は、全学年 77.2%であった。学年別にみると、2年生が 80.4%と高く、つぎに 4年生 76.9%、3年生 76.5%の順であった。2年生の割合が高いという結果は、学生のキャリア意識の早期化、あるいは2年次特有の「将来への漠然とした不安」の表れと見ることができる。
- ◆どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）について、最も割合が高かったのは「両親などの親族」で 58.8%であった。
- ◆「東北福祉大学に関係した人や組織」と回答した学生は 25.0%である。4分の1の学生は東北福祉大学に関係した人や組織に実際に相談した、または相談したいと考えている。

Ⅱ. 学科別

(1) 社会福祉学科

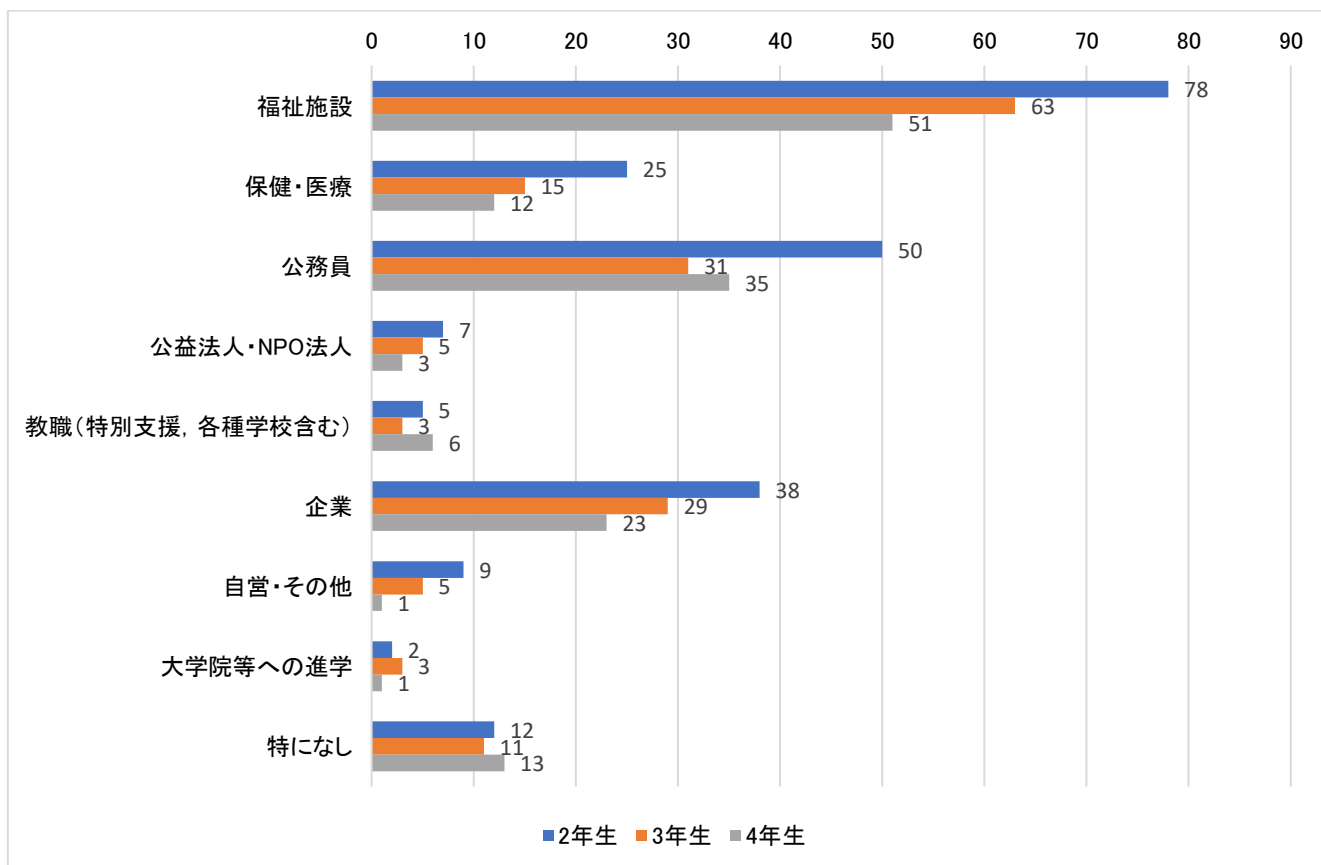
1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？



<コメント>

◆社会福祉学科の学生で入学時と現在で志望する進路に変化があった学生は、全学年 39.2%であった。約 4 割の学生が入学時から進路に変化があった。特に 4 年生は半数の学生が入学時から進路に変化があった。
◆学年別にみると、4 年生が 50.0%と高く、つぎに 3 年生 35.9%、2 年生 33.1%の順であった。学年が上がるにつれて進路に変化が生じる学生が多いことが分かる。

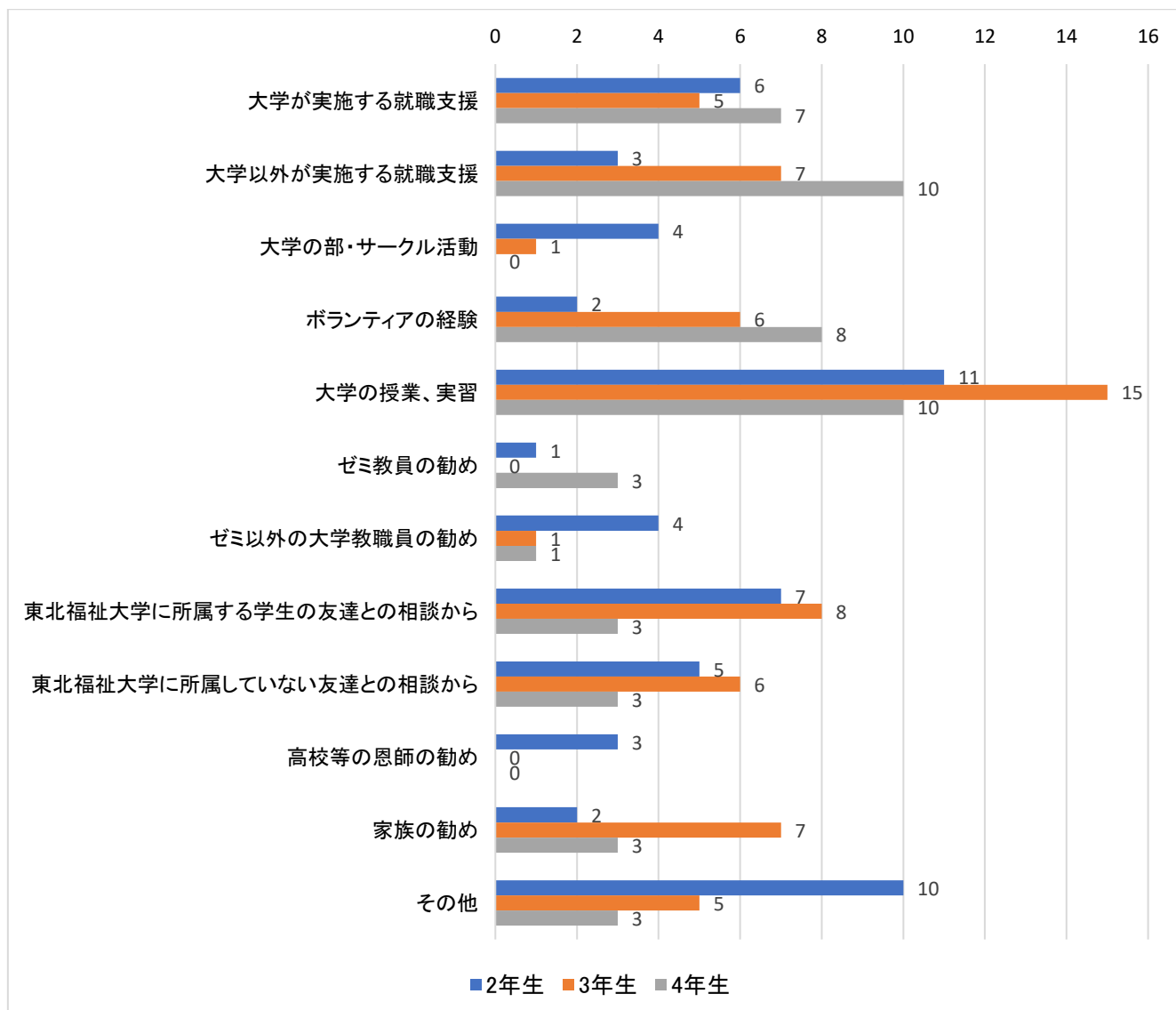
2. 入学時に志望していた進路（複数選択可）



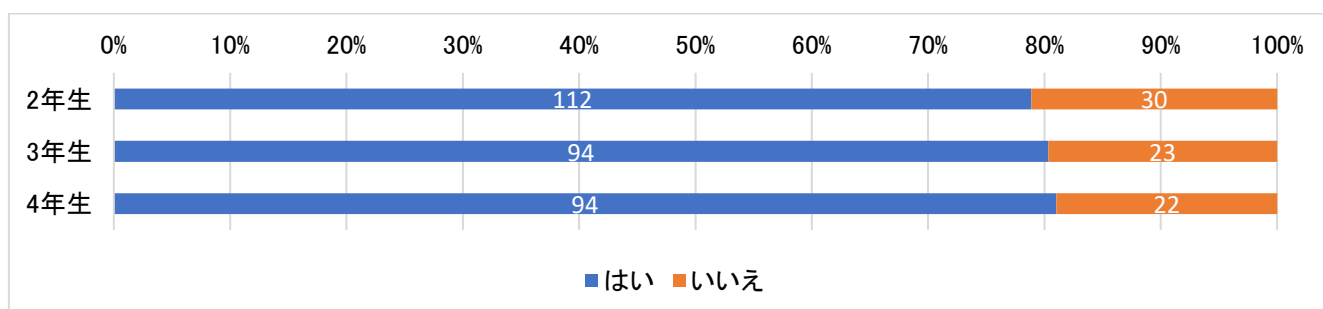
<コメント>

◆社会福祉学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「福祉施設」の割合が最も高く 50.4%であった。つぎに「公務員」30.4%、「企業」23.6%の順であった。
◆入学時に「福祉施設」の割合が高いのは学科の特性と言えるが、「公務員」を志望している学生の割合が 3 割を超えているのも特徴的である。
◆入学時に 1 割の学生は志望していた進路を「特になし」と回答していることから、入学時に進路についてあまり考えていなかった学生が少なくないと言える。

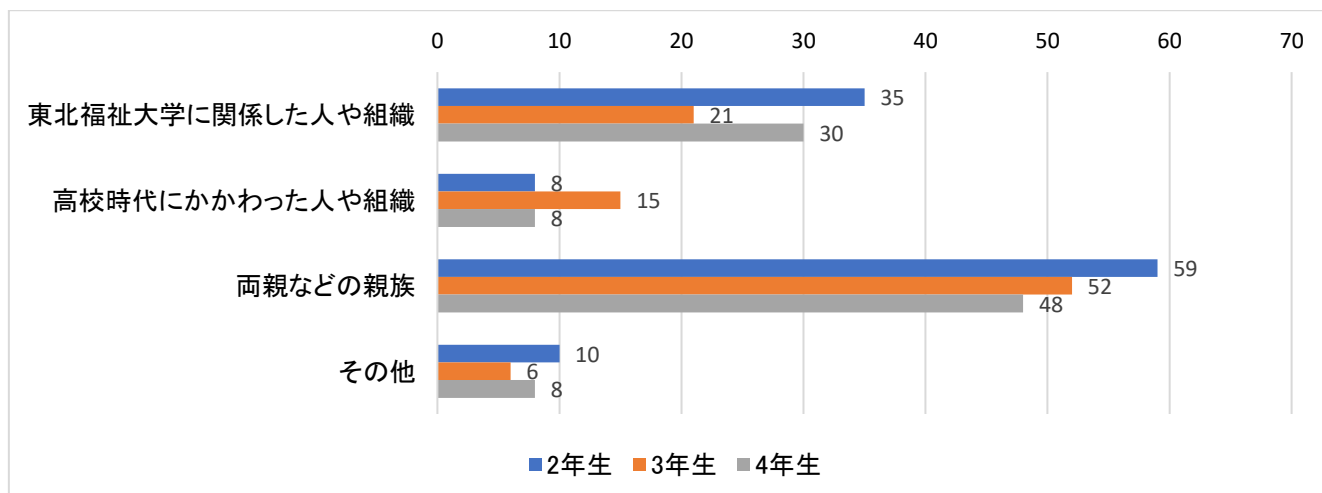
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？（人）



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか（または、相談したいか）？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？



<コメント>

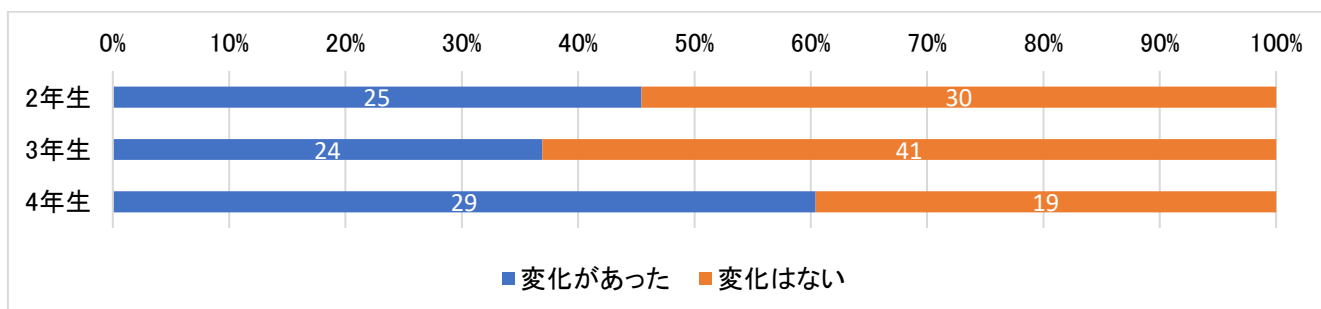
◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く36名、つぎに「大学以外が実施する就職支援」20名、「大学が実施する就職支援」および「学内の友人との相談」18名の順であった。

◆社会福祉学科の学生は進路を選択するにあたり、78.7%の学生は誰かに相談した。なお、相談の有無について学年による大きな違いはない。

◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(2) 福祉心理学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

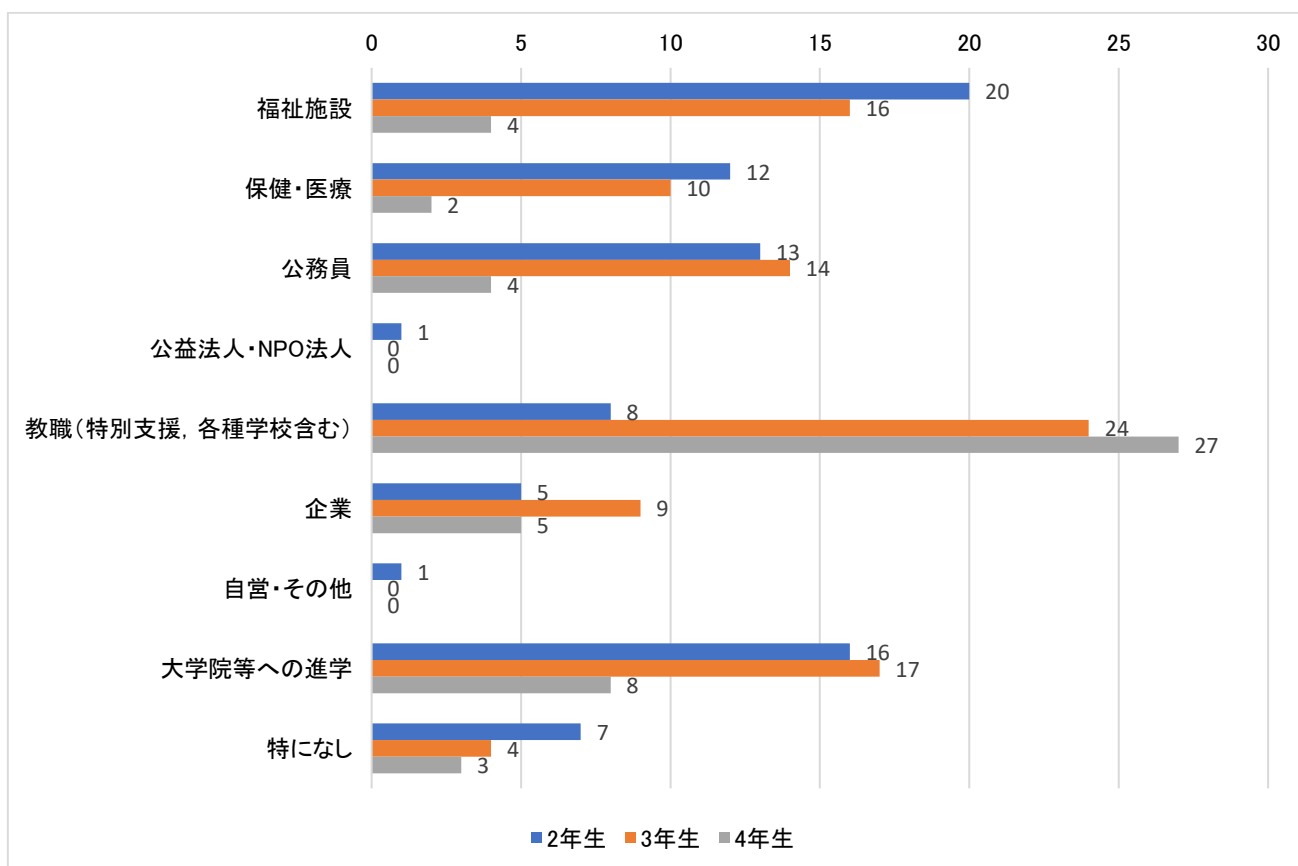


<コメント>

◆福祉心理学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 45.9%であった。4割以上の学生が入学時から進路に変化があったことが分かる。特に4年生は6割以上(60.4%)の学生が入学時から進路に変化があった。

◆学年別にみると、4年生が60.4%と高く、つぎに2年生45.4%、3年生36.9%、の順であった。4年生になると急激に割合が上昇している。したがって、3年生の学び等が4年生での進路変更大きく影響している可能性がある。

2. 入学時に志望していた進路



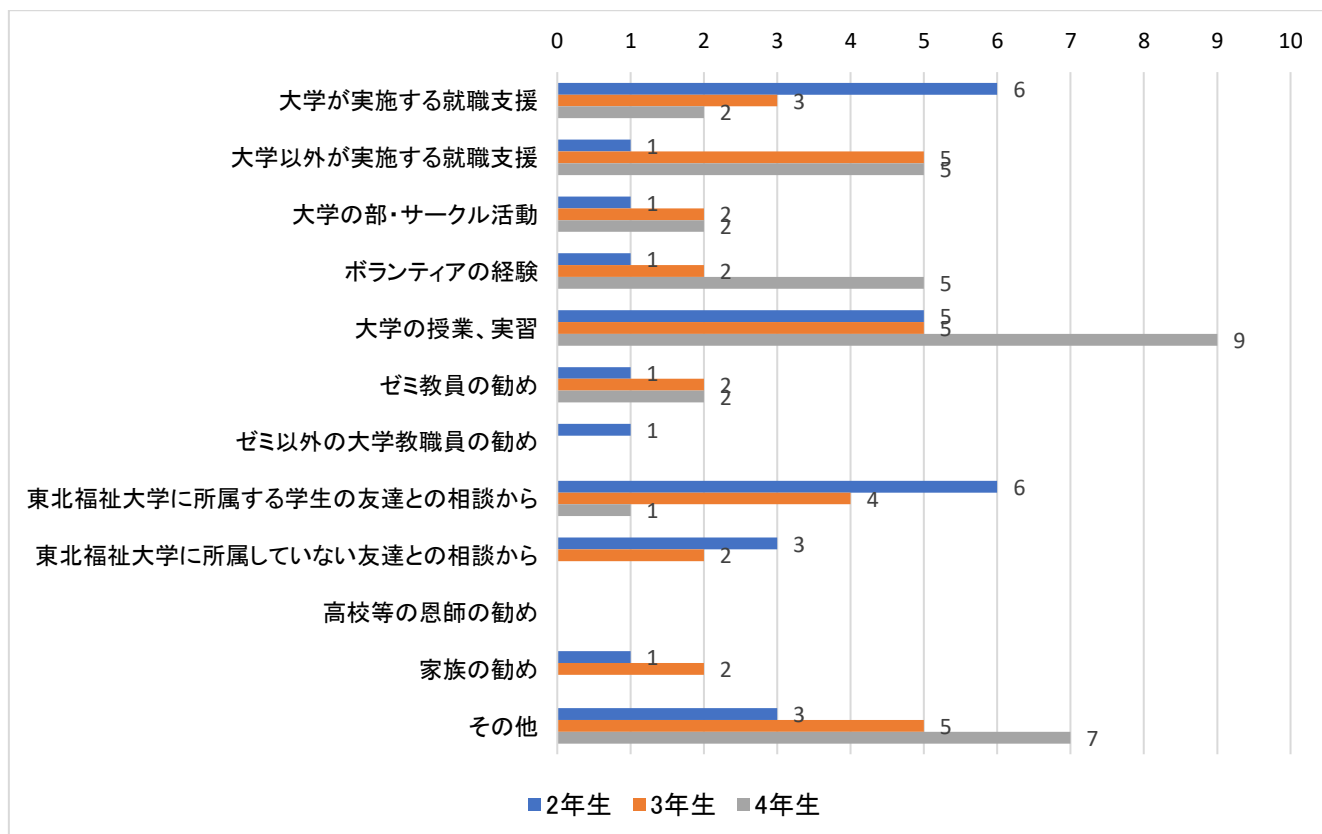
<コメント>

◆福祉心理学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「教職(特別支援, 各種学校含む)」の割合が最も高く34.7%であった。つぎに「大学院等への進学」24.1%、「福祉施設」23.5%の順であった。

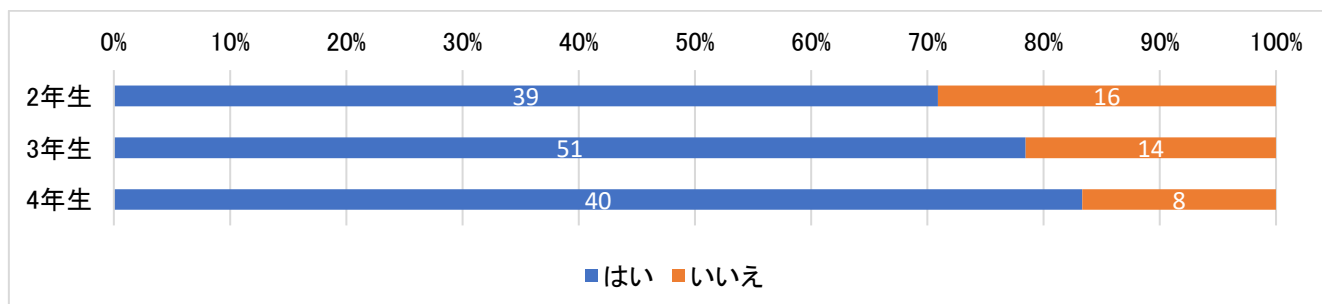
◆3年生、4年生は入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望していた学生の割合が高く、2年生は「福祉施設」を志望していた学生の割合が高い。

◆福祉心理学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生は比較的少ないが、2年生で若干多い。

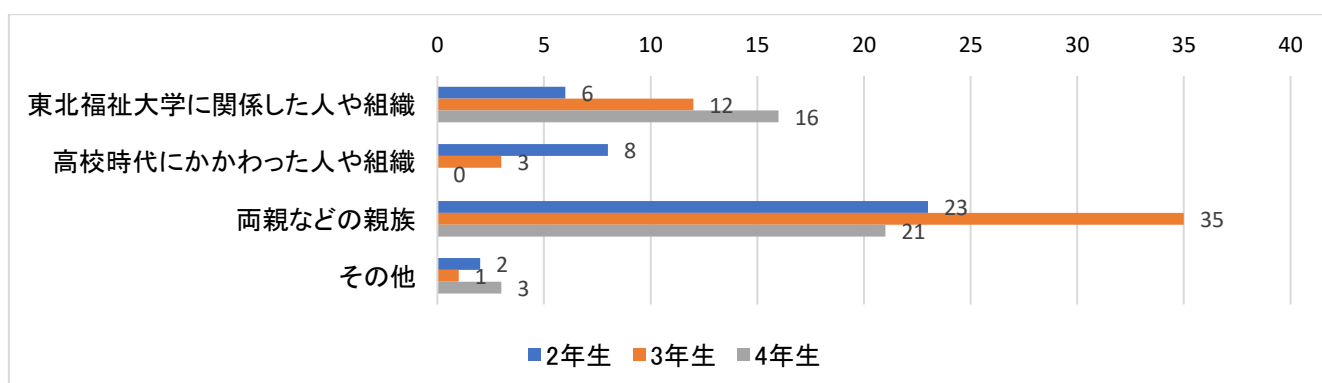
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

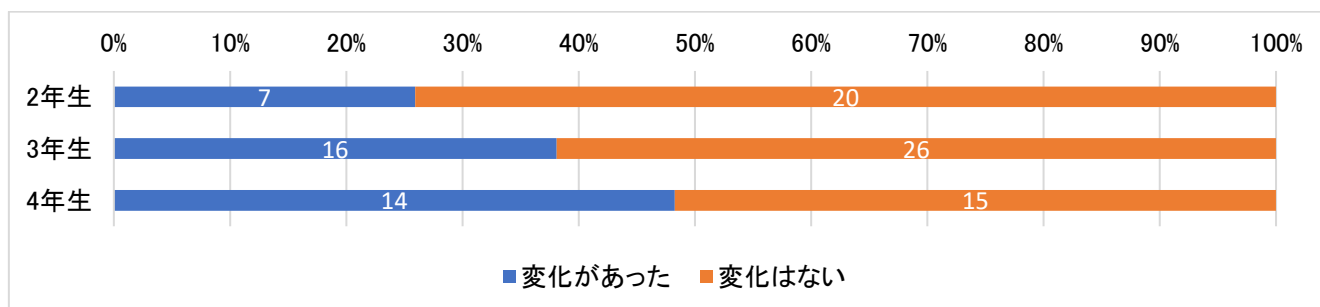


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く 19 名、つぎに「大学が実施する就職支援」、「大学以外が実施する就職支援」、「学内の友人と相談」が 11 名であった。
- ◆福祉心理学科の学生は進路を選択するにあたり、76.4%の学生は誰かに相談した。特に 4 年生は進路を選択するにあたり 8 割以上 (83.3%) が誰かに相談していた。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(3) 福祉行政学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

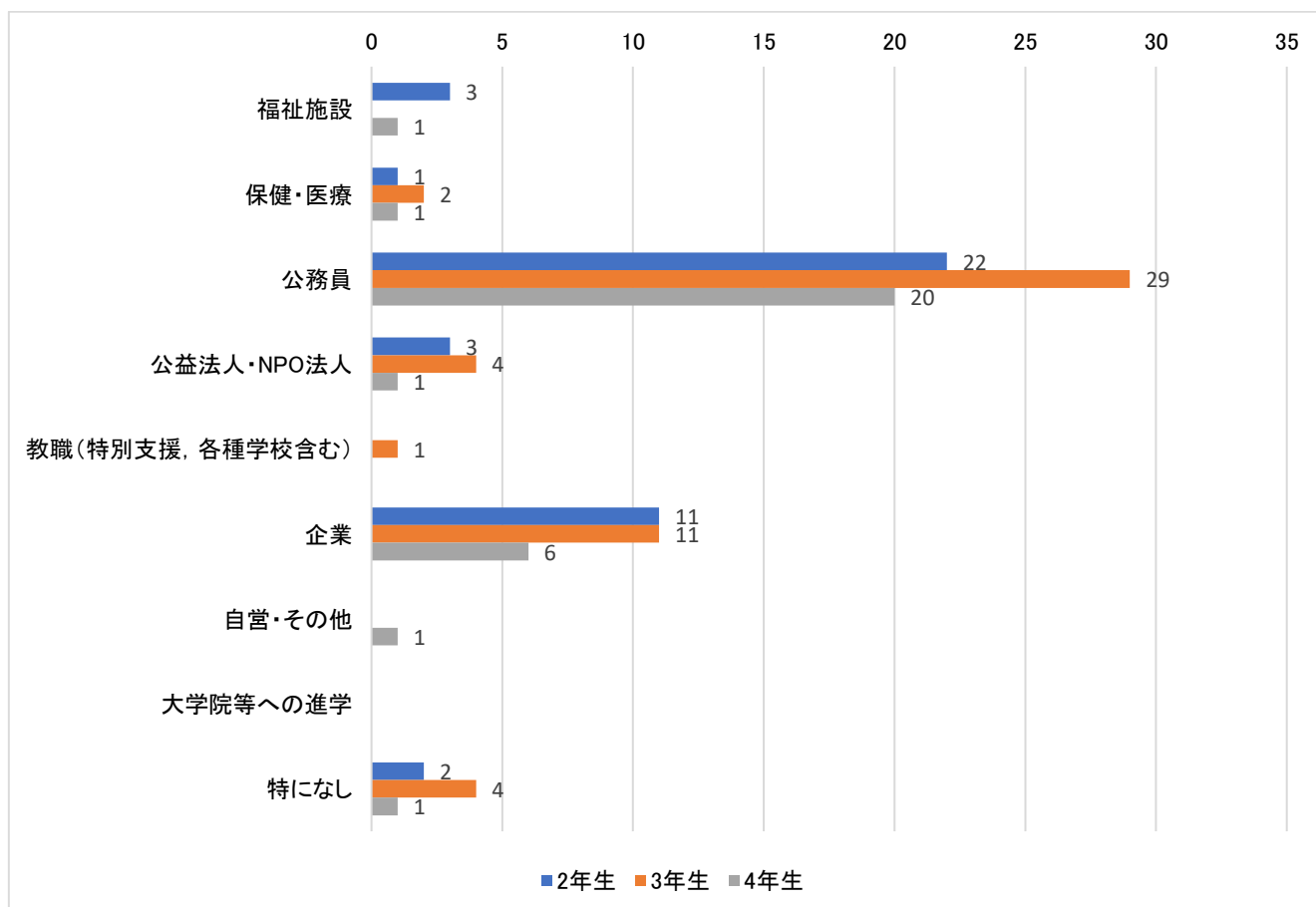


<コメント>

◆福祉行政学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 39.0%であった。約 4 割の学生が入学時から進路に変化があったことが分かる。特に 4 年生は約 5 割(48.3%)の学生が入学時から進路に変化があった。

◆学年別にみると、4 年生が 48.3%と高く、つぎに 3 年生 38.1%、2 年生 25.9%の順であった。2 年生は入学時から進路に変化が生じた学生の割合は比較的低いが、学年が上がるごとに割合が上昇している。

2. 入学時に志望していた進路



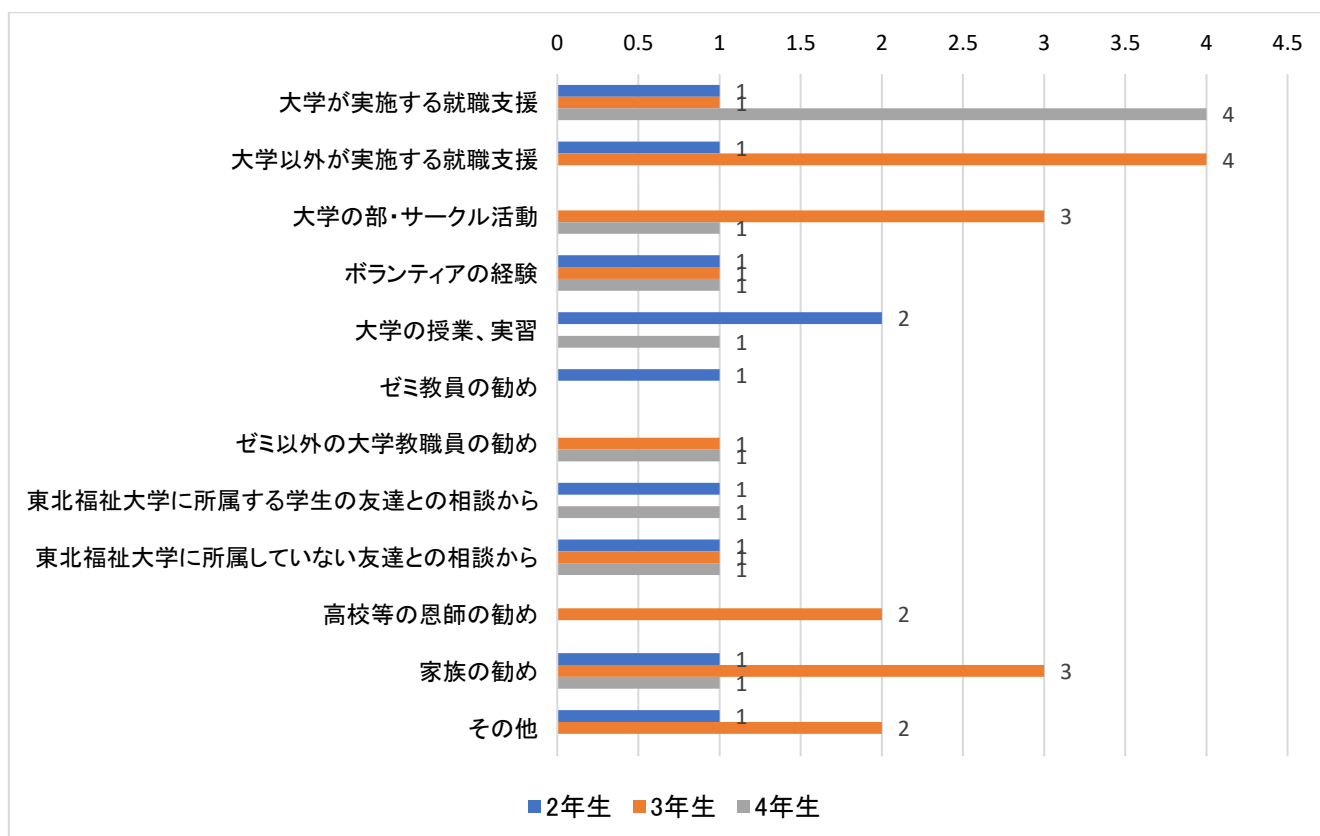
<コメント>

◆福祉行政学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「公務員」の割合が最も高く 72.0%、つぎに「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」29.0%であった。7 割以上の学生は公務員を志望していたことが分かる。

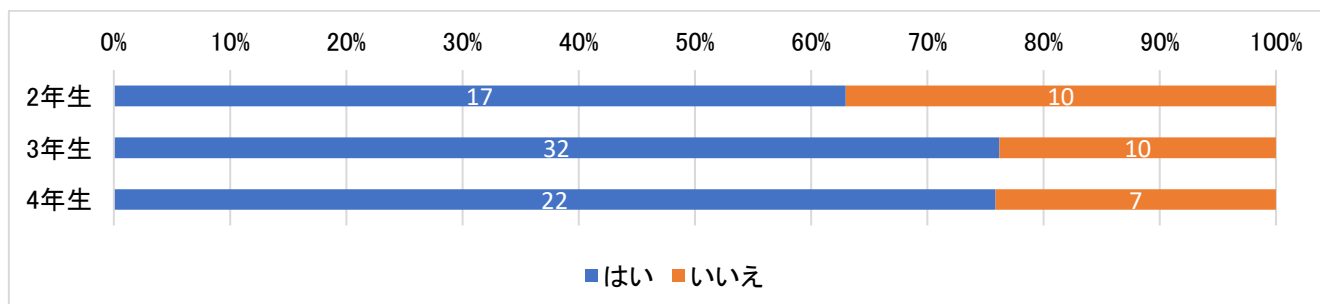
◆2～4 年生すべてで入学時に「公務員」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆福祉行政学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

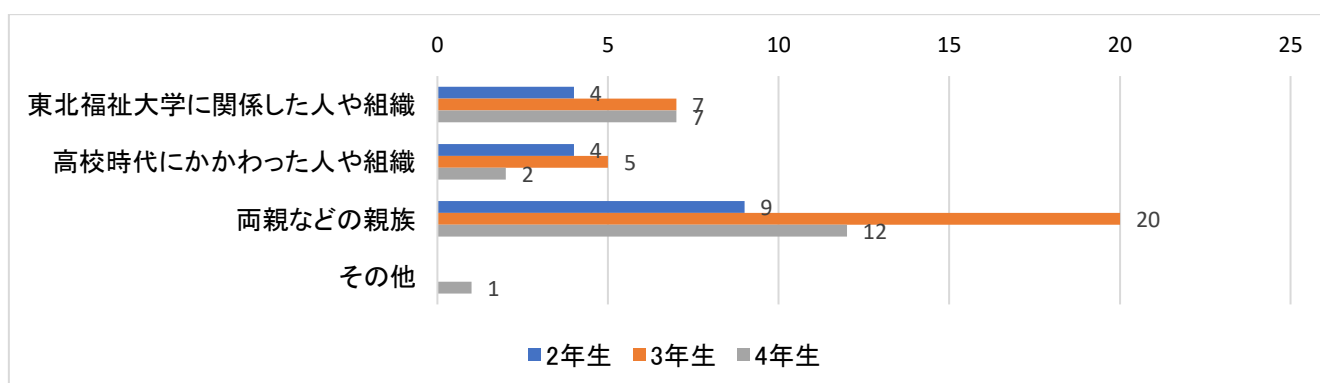
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

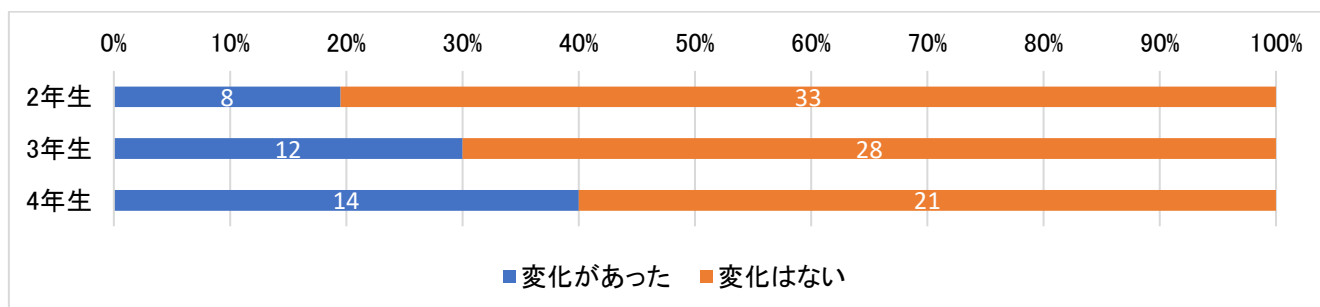


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると、「大学が実施する就職支援」が最も多く6名、ついで「大学以外が実施する就職支援」および「家族の勧め」5名であった。
- ◆福祉行政学科の学生は進路を選択するにあたり、7割以上(73.0%)の学生は誰かに相談した。
- ◆相談した(または相談したい)相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(4) 産業福祉マネジメント学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

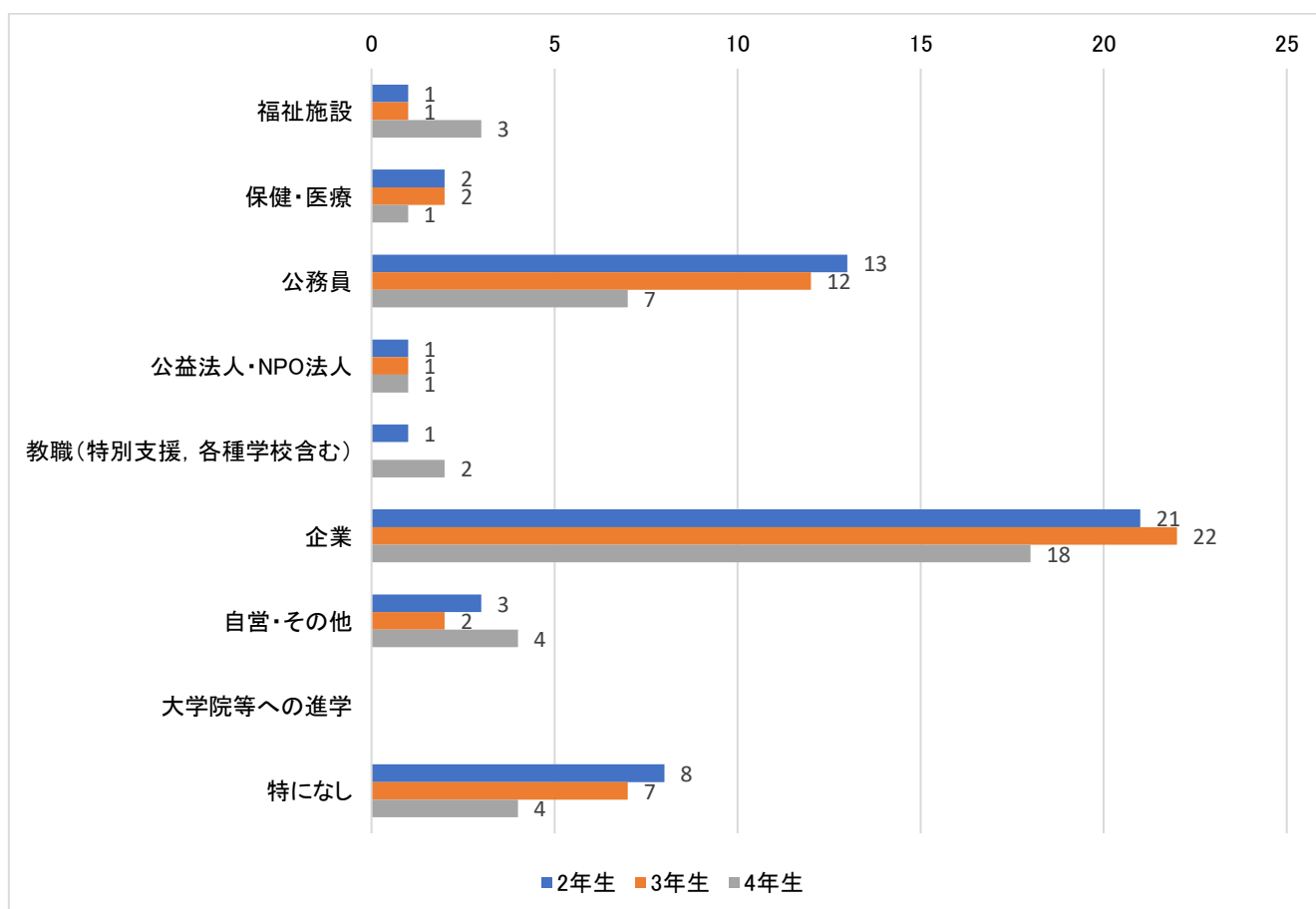


<コメント>

◆産業福祉マネジメント学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 29.3% であった。特に4年生は4割(40.0%)の学生が入学時から進路に変化があった。

◆学年別にみると、4年生が40.0%と高く、つぎに3年生30.0%、2年生19.5%の順であった。2年生は入学時から進路に変化が生じた学生の割合は比較的低いが、学年が上がるごとに割合が上昇している。

2. 入学時に志望していた進路



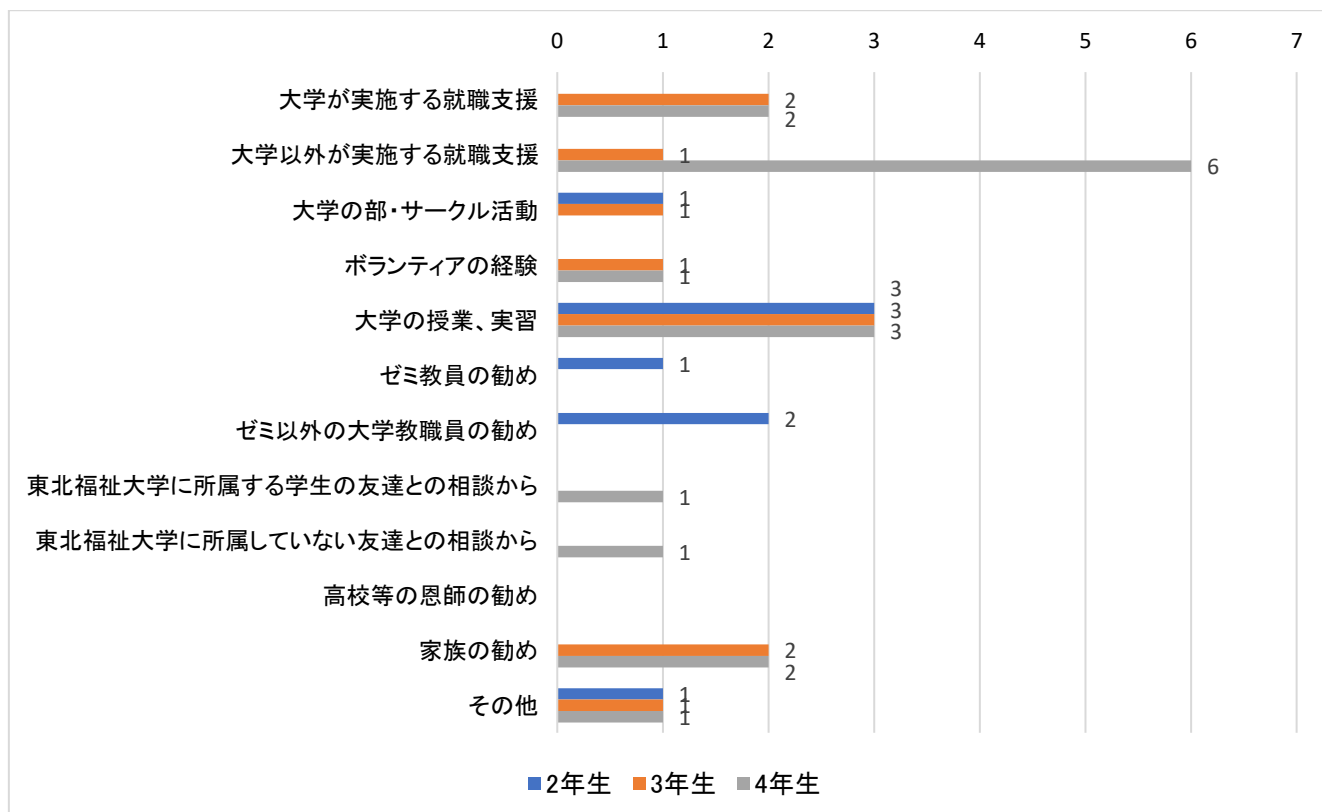
<コメント>

◆産業福祉マネジメント学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「企業」の割合が最も高く52.6%、つぎに「公務員」27.6%であった。入学時に「企業」を志望している学生が圧倒的に多い。

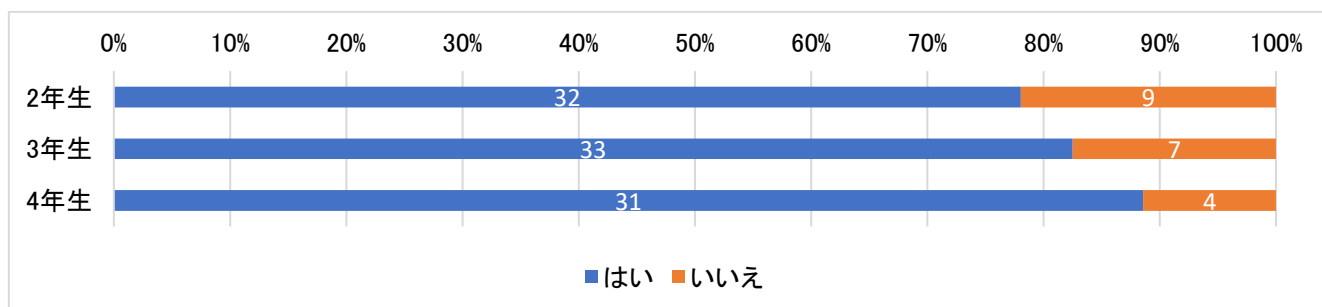
◆2～4年生すべてで入学時に「企業」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆産業福祉マネジメント学科では入学時に16.4%の学生は志望していた進路を「特になし」と回答していることから、入学時に進路についてあまり考えていなかった学生が少なくないと言える。

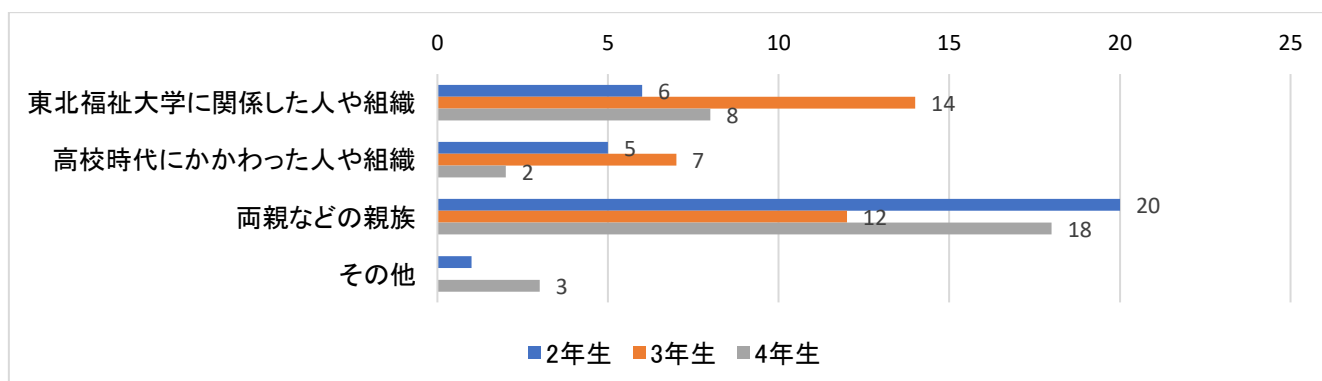
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？



<コメント>

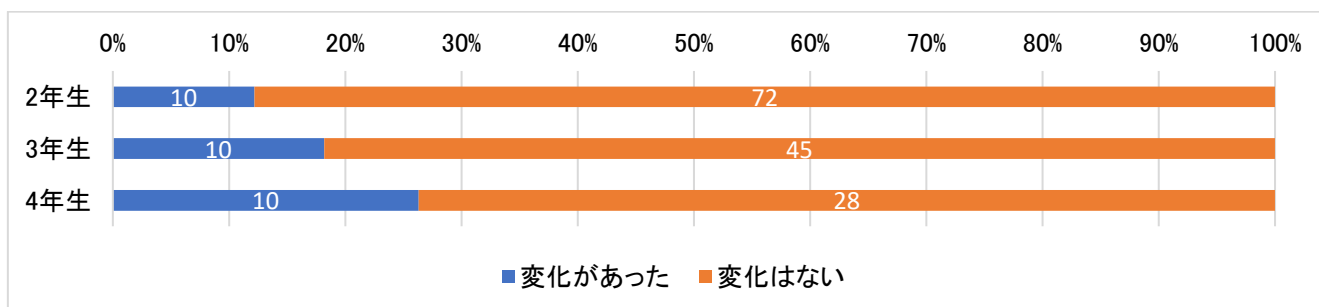
◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く9名、ついで「大学以外が実施する就職支援」7名であった。

◆産業福祉マネジメント学科の学生は進路を選択するにあたり、8割以上(82.8%)の学生は誰かに相談した。特に4年生は進路を選択するにあたり88.6%が誰かに相談していた。

◆相談した(または相談したい)相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多いが、「東北福祉大学に関係した人や組織」も比較的多い。

(5) 情報福祉マネジメント学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

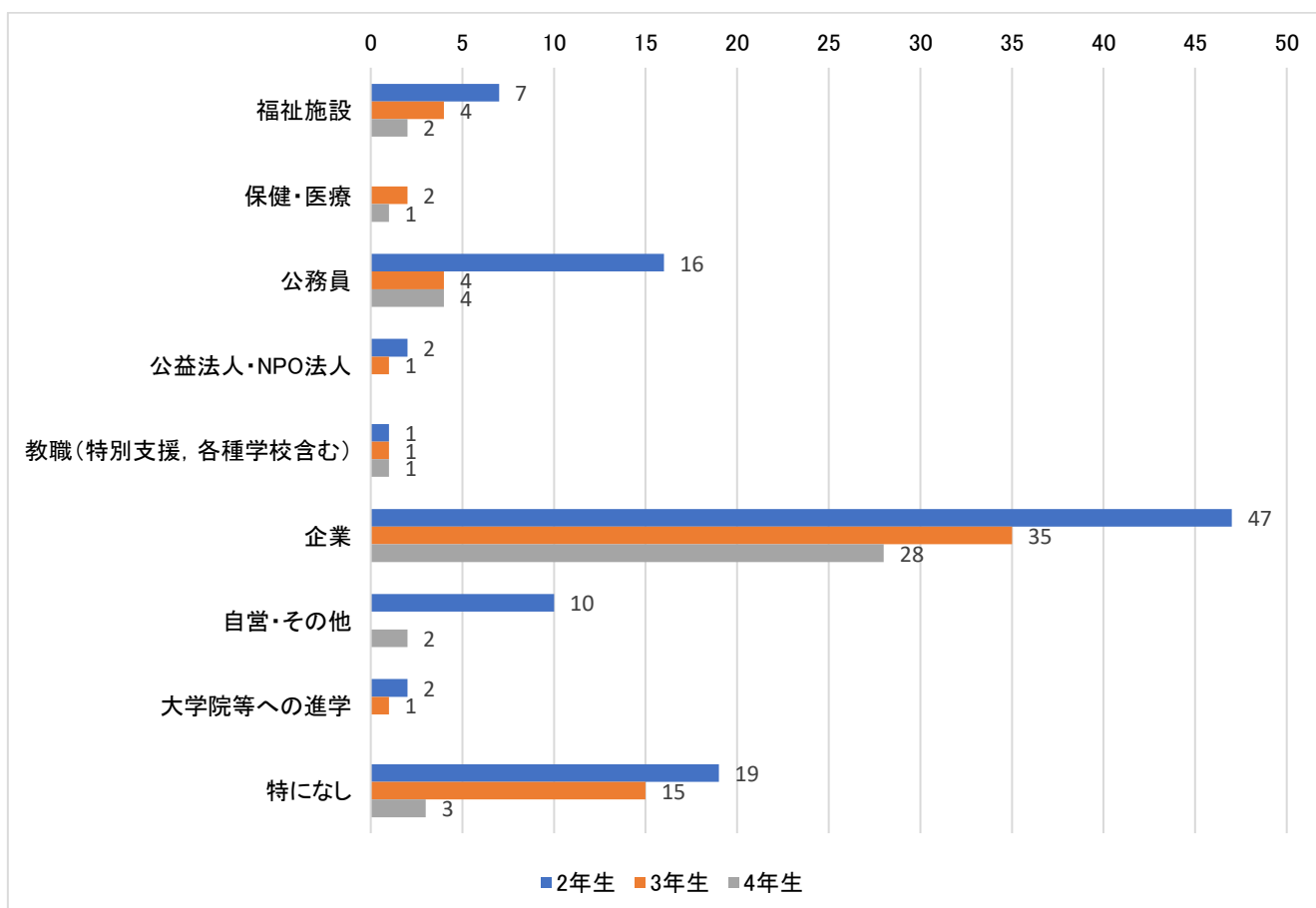


<コメント>

◆情報福祉マネジメント学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 16.9%であった。入学時から進路に変化があった学生は比較的少なく、8 割以上(81.9%)の学生は入学時から進路に変化がない。

◆学年別にみると、4 年生が 26.3%と高く、つぎに 3 年生 18.2%、2 年生 12.2%の順であった。2 年生は入学時から進路に変化が生じた学生の割合は比較的低いが、学年が上がるごとに割合が上昇している。

2. 入学時に志望していた進路



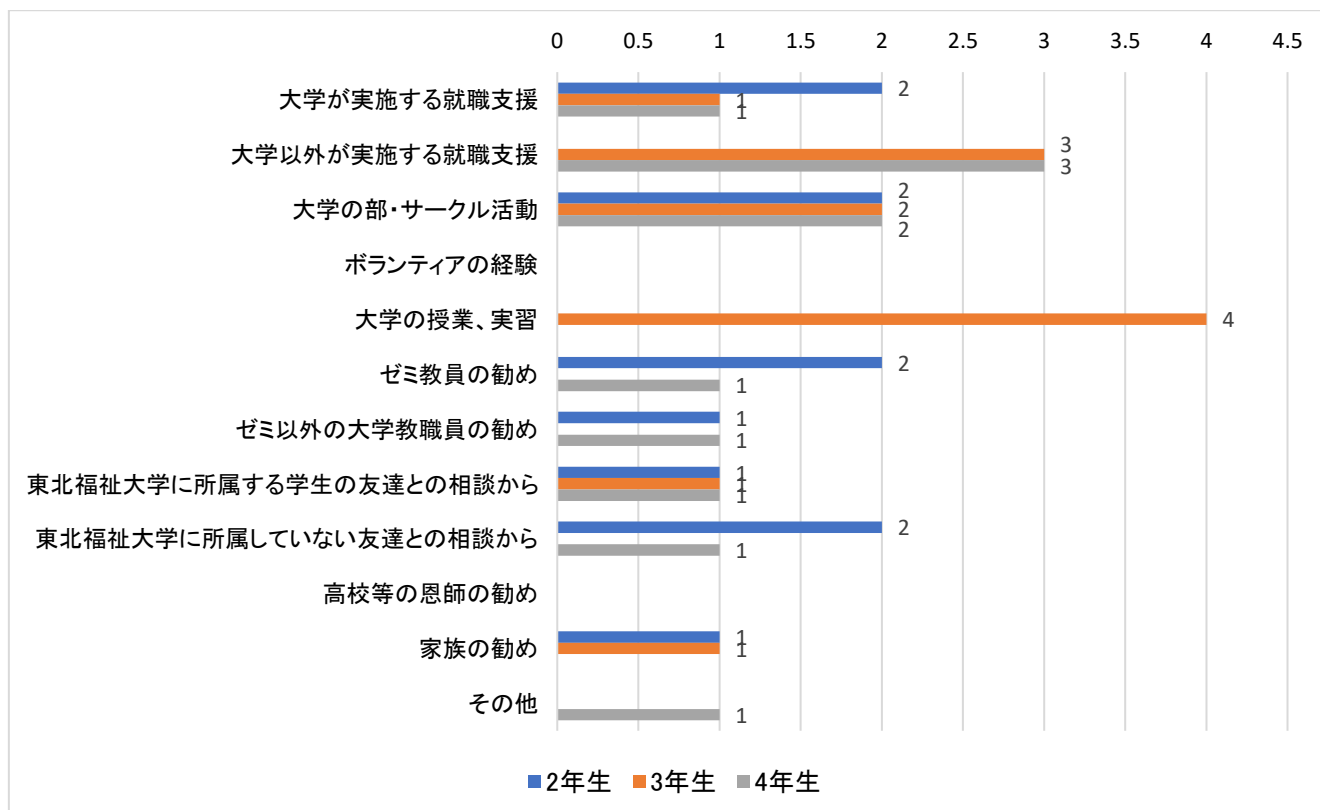
<コメント>

◆情報福祉マネジメント学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「企業」の割合が最も高く 62.1%、つぎに「公務員」13.6%であった。入学時に「企業」を志望している学生が圧倒的に多い。

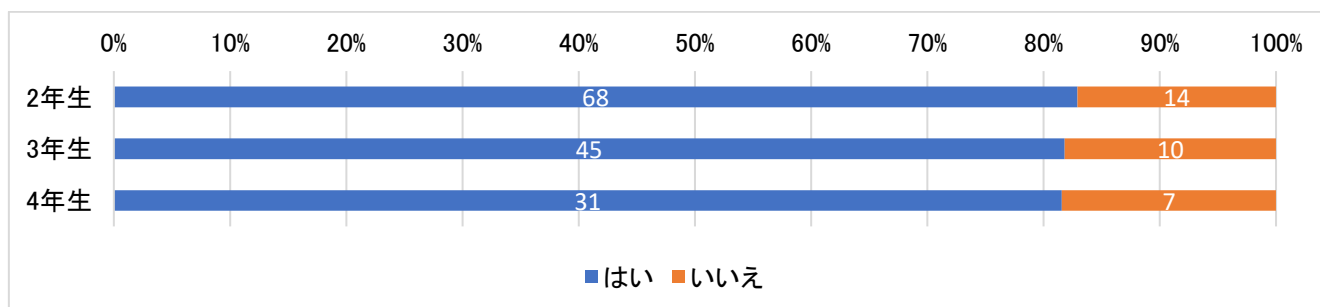
◆2～4 年生すべてで入学時に「企業」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆情報福祉マネジメント学科では入学時に 20.9%の学生は志望していた進路を「特になし」と回答していることから、入学時に進路についてあまり考えていなかった学生が少なくないと言える。

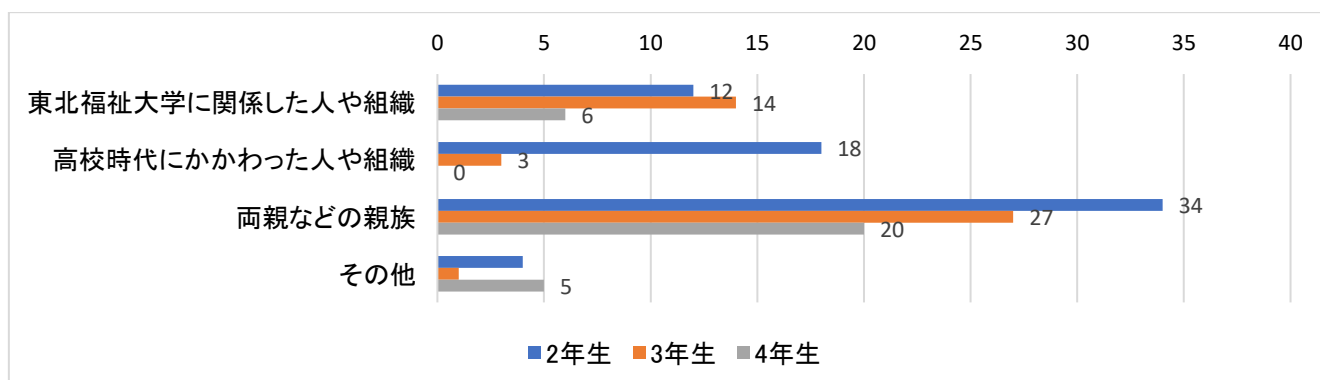
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

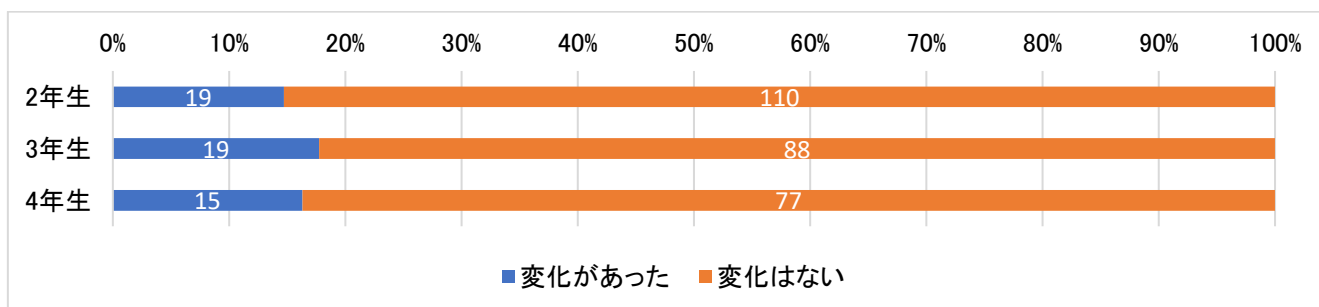


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると「大学以外が実施する就職支援」および、「大学の部・サークル活動」が最も多く6名であった。
- ◆情報福祉マネジメント学科の学生は進路を選択するにあたり、8割以上(81.4%)の学生は誰かに相談した。なお、相談の有無について学年による違いはほとんどない。
- ◆相談した(または相談したい)相手として「両親などの親族」を挙げている学生が圧倒的に多いが、「東北福祉大学に関係した人や組織」を挙げている学生も少なくない。

(6) 教育学科 初等教育専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？



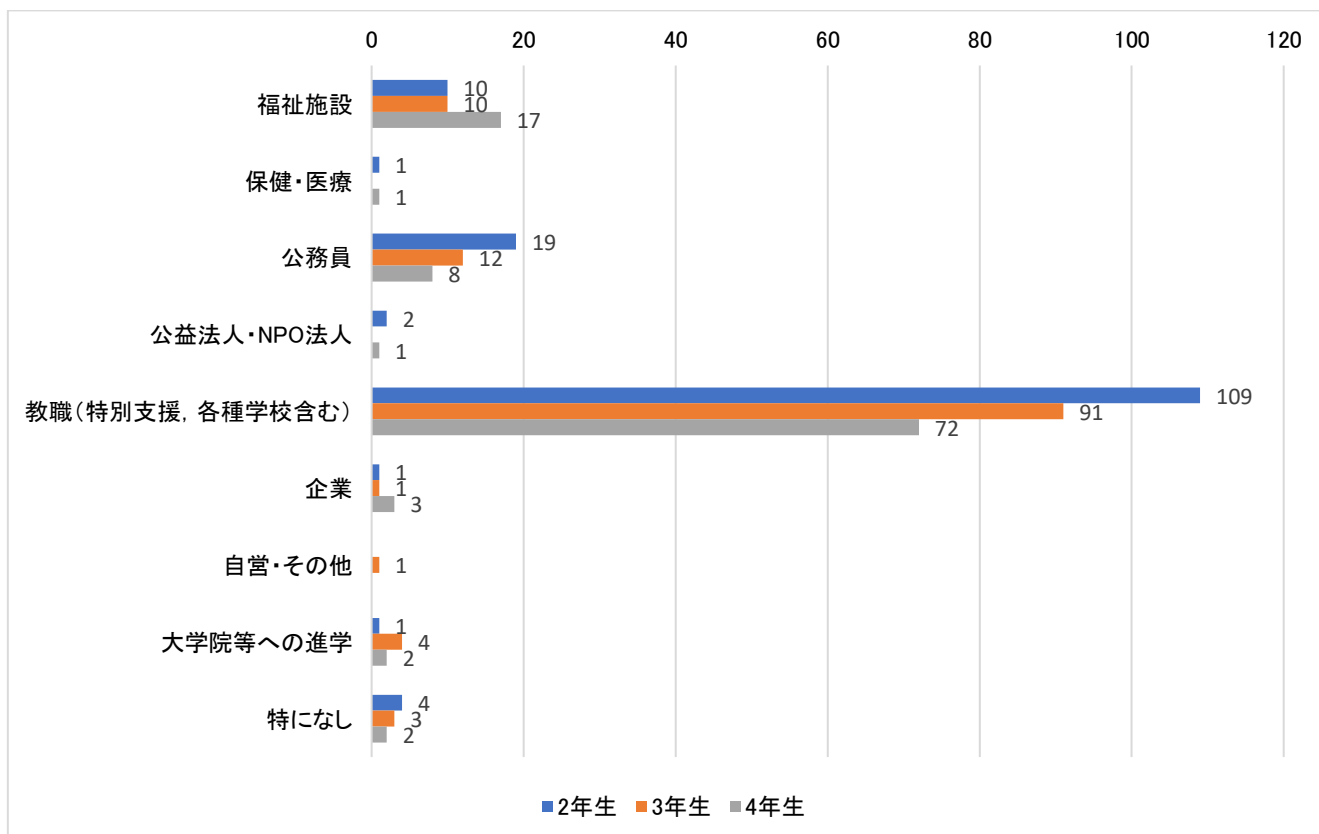
<コメント>

◆教育学科初等教育専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 16.1%であった。入学時から進路に変化があった学生は比較的少なく、8 割以上(83.3%)の学生は入学時から進路に変化がない。

◆一方、教員になることが主たる目的の学科において 2 割弱の学生が進路に変化が生じている。

◆学年別にみると、3 年生が 17.8%と高く、つぎに 4 年生 16.3%、2 年生 14.7%の順であった。

2. 入学時に志望していた進路



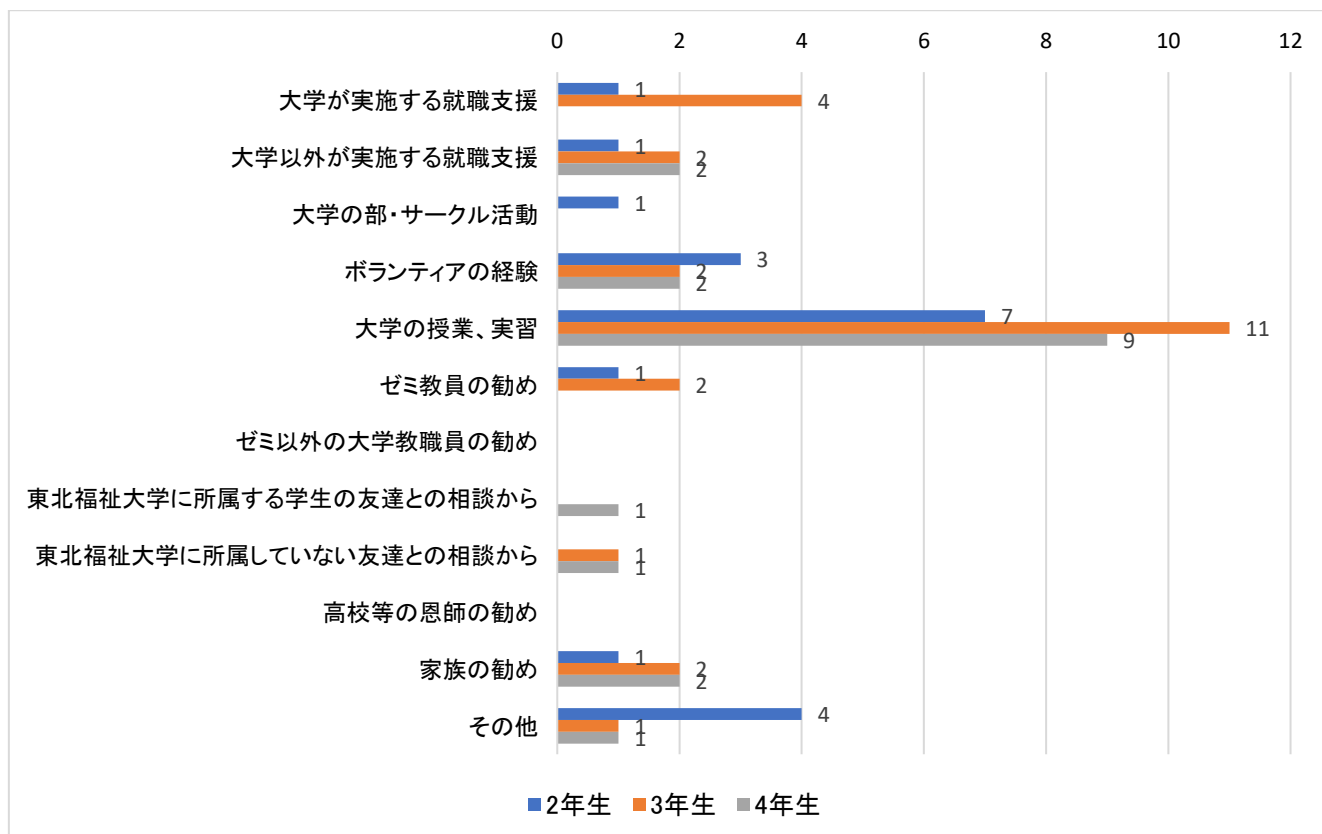
<コメント>

◆教育学科初等教育専攻の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「教職(特別支援, 各種学校含む)」の割合が最も高く 82.4%、つぎに「公務員」11.8%、「福祉施設」11.2%の順であった。学科の特徴の通り入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望している学生が圧倒的に多い。

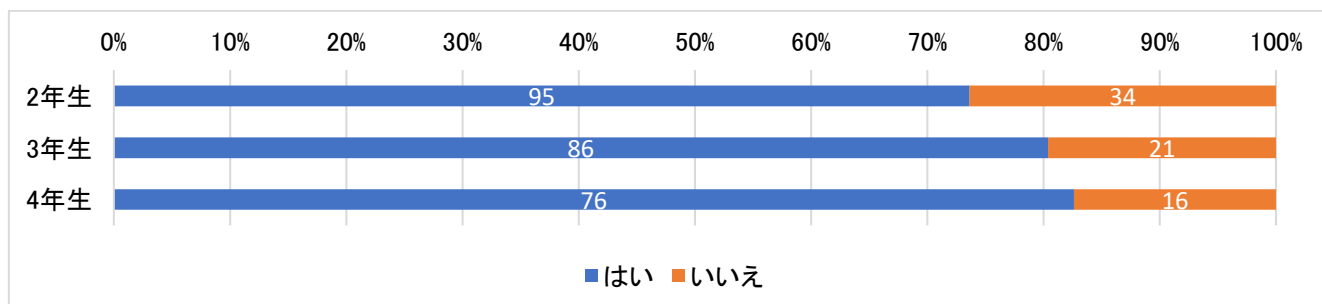
◆2～4 年生すべてで入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆教育学科初等教育専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

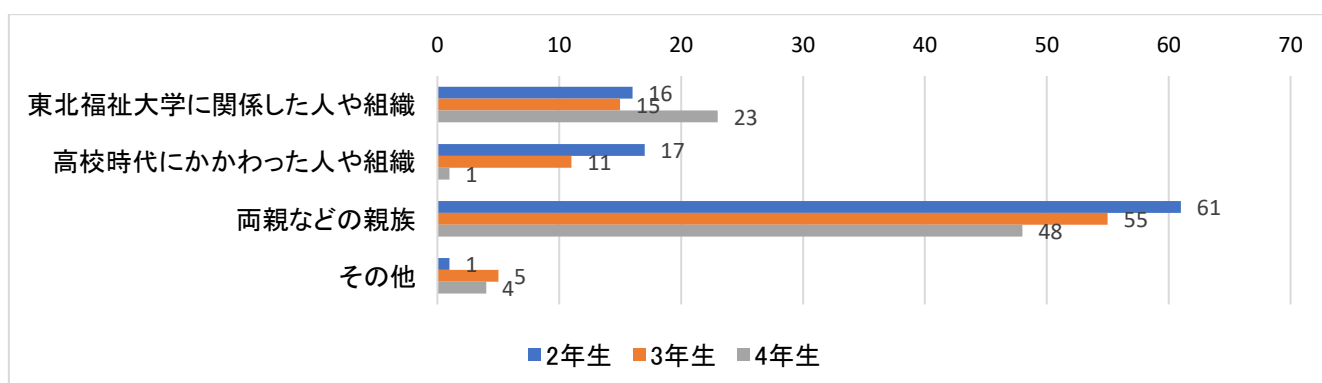
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

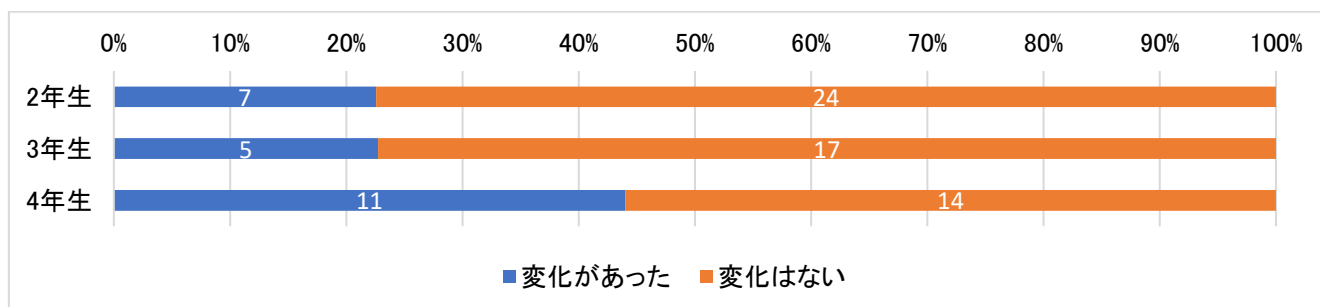


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く27名、ついで「ボランティアの経験」が7名であった。
- ◆教育学科初等教育専攻の学生は進路を選択するにあたり、77.9%の学生は誰かに相談した。特に4年生は8割以上(82.6%)が誰かに相談していた。
- ◆相談した(または相談したい)相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(7) 教育学科 中等教育専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

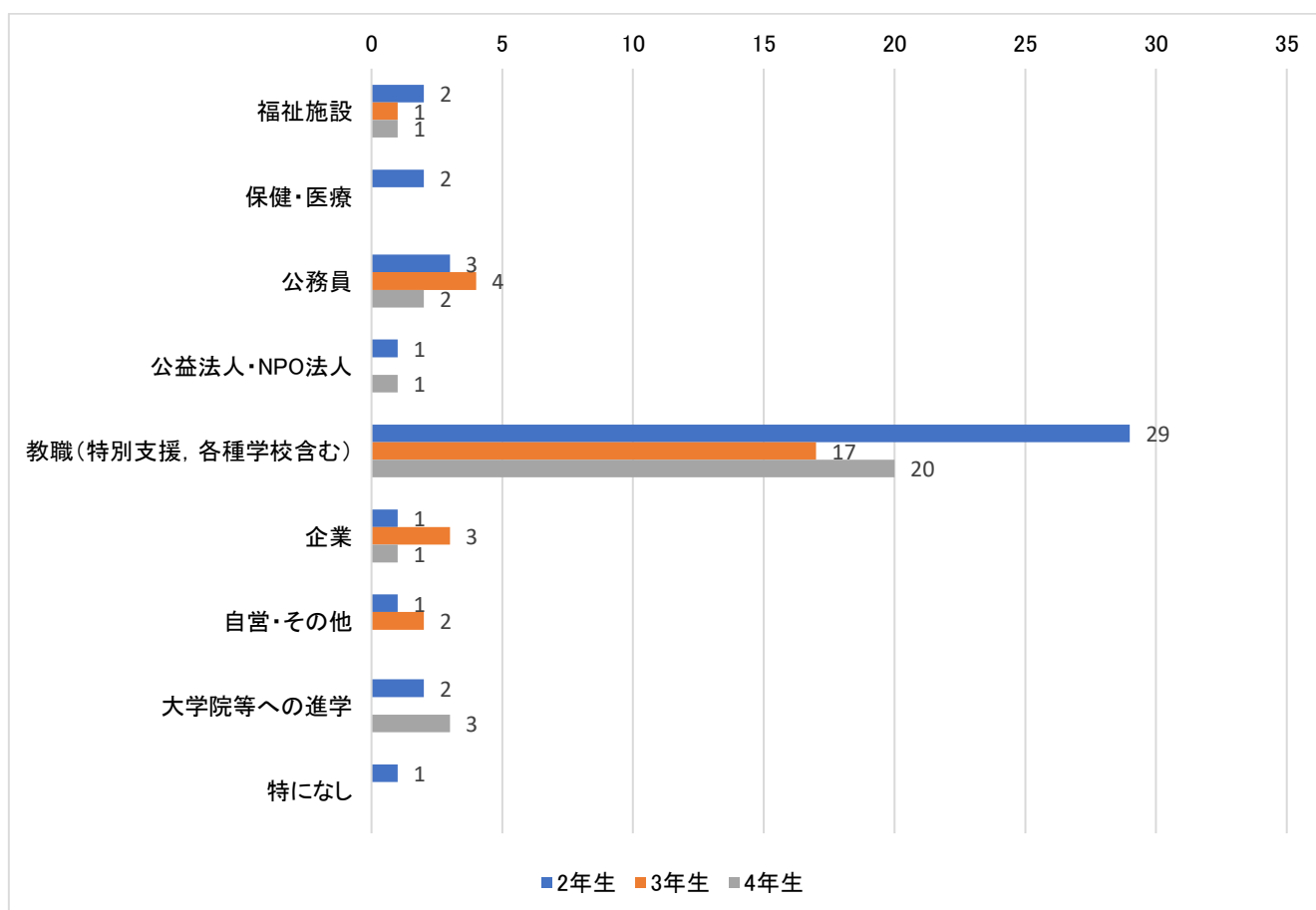


<コメント>

◆教育学科中等教育専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 28.8%であった。教員になることが主たる目的の学科において 3 割弱の学生が進路に変化が生じている。特に 4 年生は進路に変更があった学生の割合が高い。

◆学年別にみると、4 年生が 44.0%と最も割合が高く、つぎに 3 年生 22.7%、2 年生は 22.6%の順であった。4 年生になると急激に割合が上昇している。したがって、3 年生の学び等が 4 年生での進路変更大きく影響している可能性がある。

2. 入学時に志望していた進路



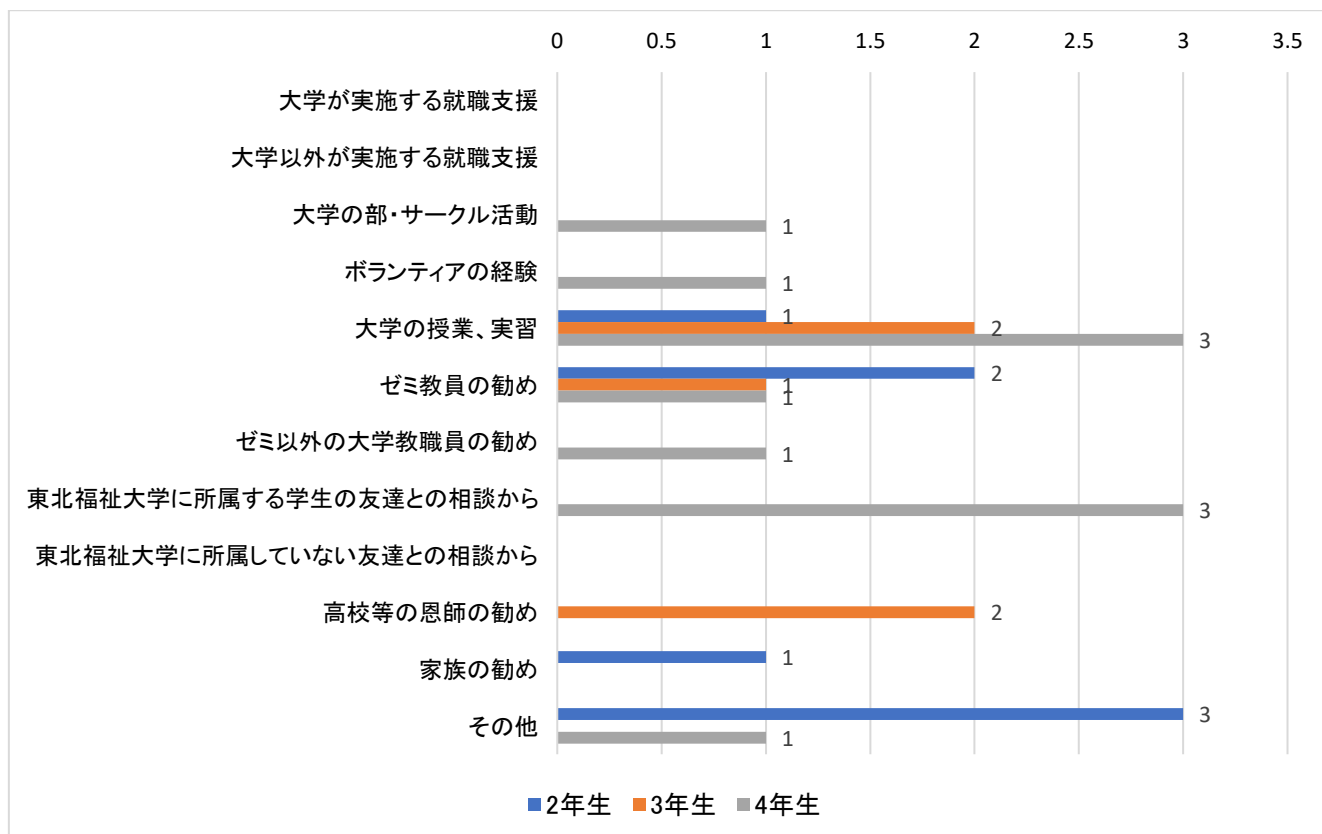
<コメント>

◆教育学科中等教育専攻の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「教職(特別支援, 各種学校含む)」の割合が最も高く 82.5%、つぎに「公務員」11.3%であった。学科の特徴の通り入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望している学生が圧倒的に多い。

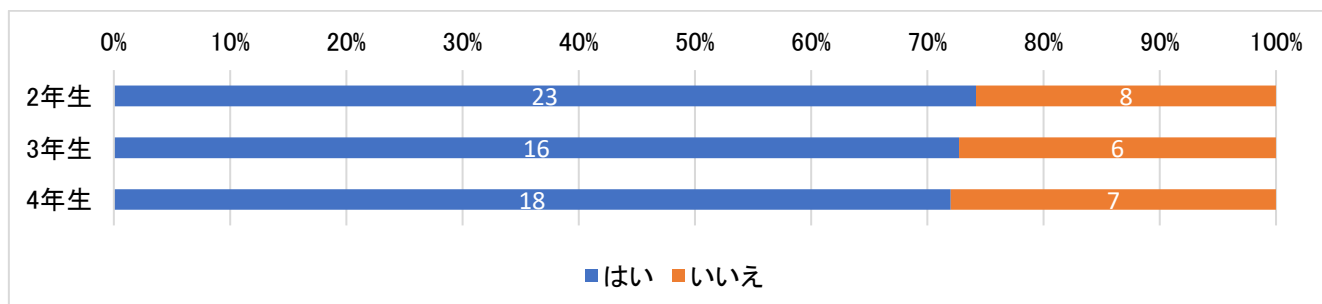
◆2～4 年生すべてで入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆教育学科中等教育専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

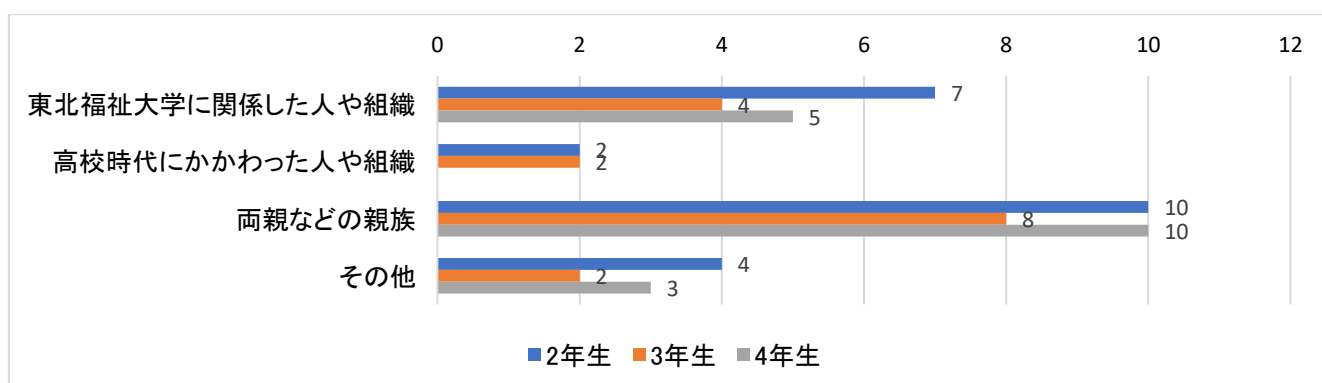
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

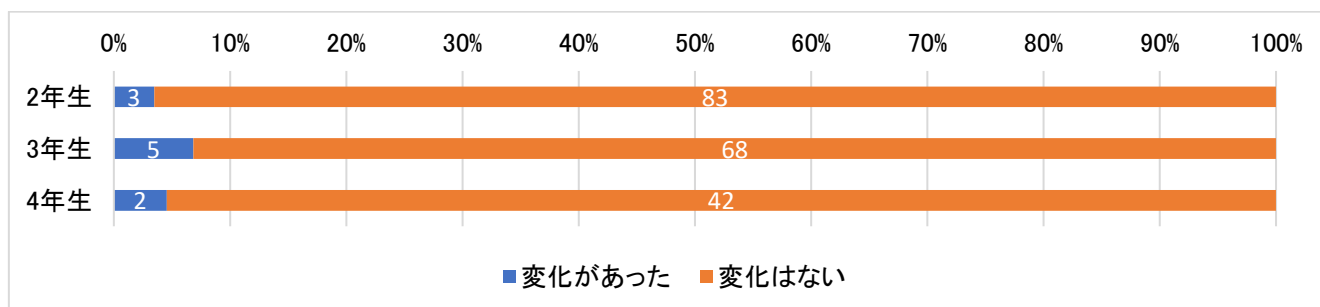


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く 6 名、ついで「ゼミ教員の勧め」が 4 名であった。
- ◆教育学科中等教育専攻の学生は進路を選択するにあたり、71.3%の学生は誰かに相談した。一方で、26.3%の学生は進路を選択するにあたり誰にも相談していない。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(8) 保健看護学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

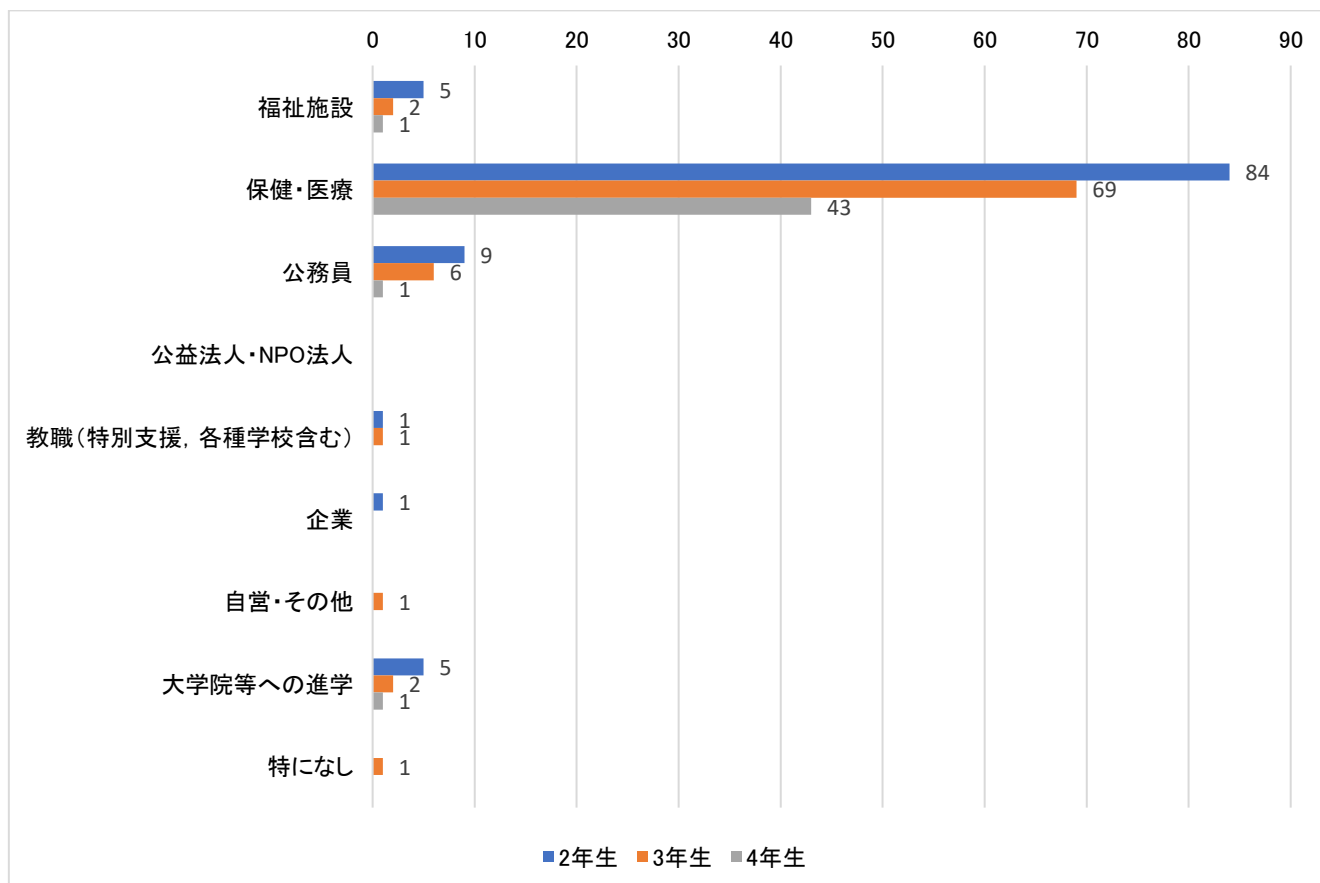


<コメント>

◆保健看護学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 4.9%であった。入学時から進路に変化があった学生は極めて少なく、9 割以上 (94.1%) の学生は入学時から進路に変化がない。

◆看護師(保健師、助産師)になることが主たる目的の学科において、入学時から学生の進路が明確になっていることを示している。

2. 入学時に志望していた進路



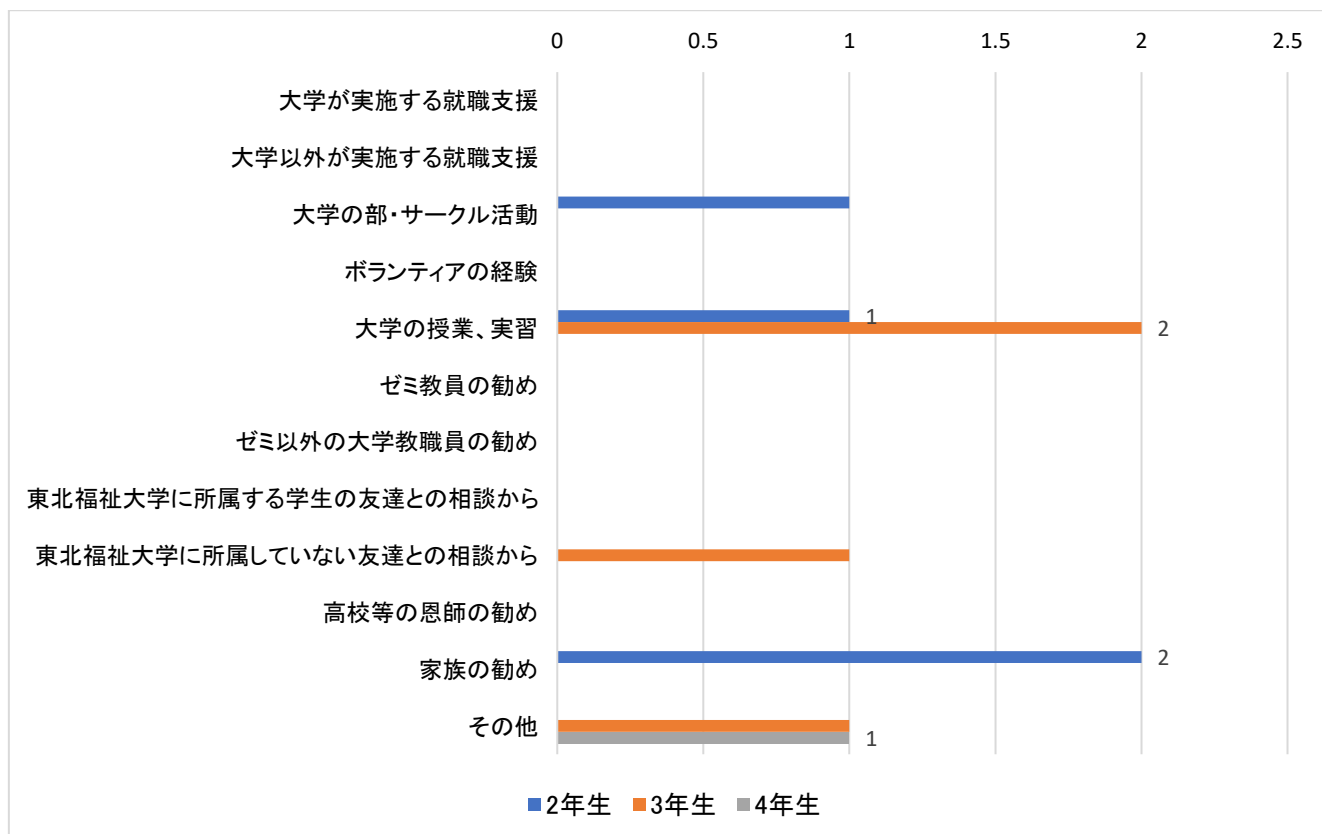
<コメント>

◆保健看護学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 95.6%、つぎに「公務員」7.8%となっている。学科の特徴の通り入学時に「保健・医療」を志望している学生が圧倒的に多い。なお、「公務員(官公庁、公社など行政系)」の割合が比較的高いのは保健所や保健センター等で勤務する市町村保健師を希望している学生によるものであると思われる。

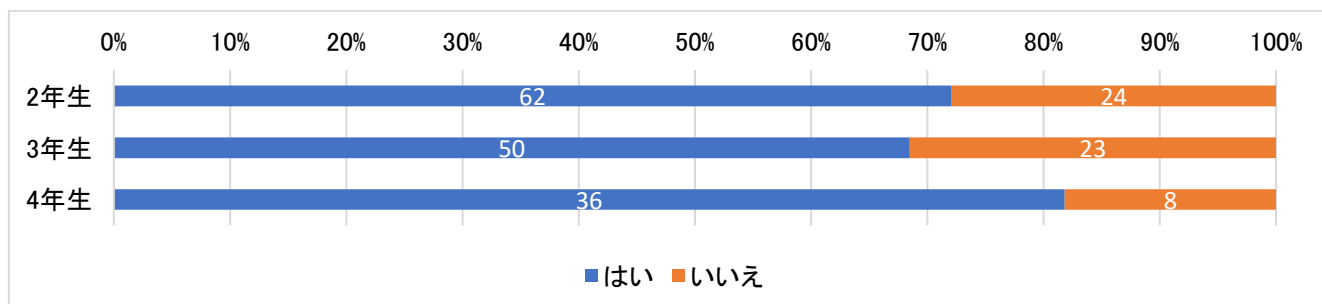
◆2～4 年生すべてで入学時に「保健・医療」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆保健看護学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

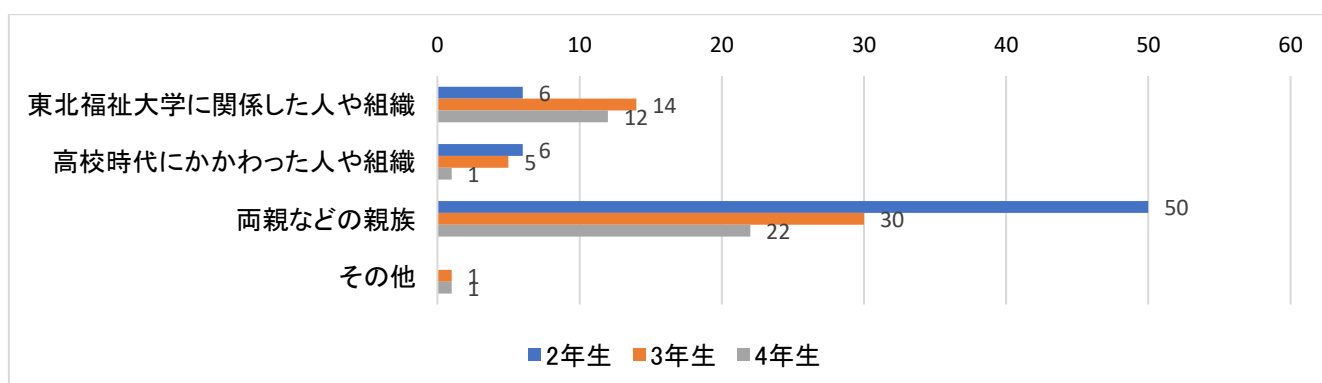
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

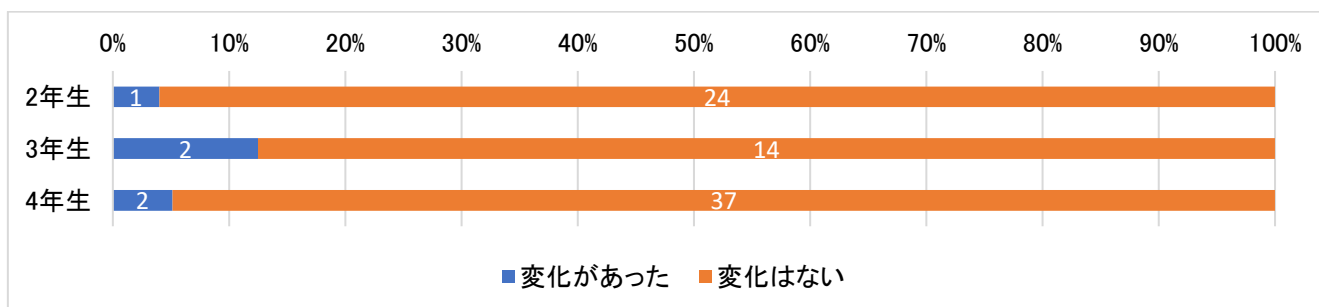


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く3名であった。
- ◆保健看護学科の学生は進路を選択するにあたり、72.2%の学生は誰かに相談した。特に、4年生は81.8%が進路を選択するにあたり、誰かに相談している。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(9) リハビリテーション学科 理学療法学専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

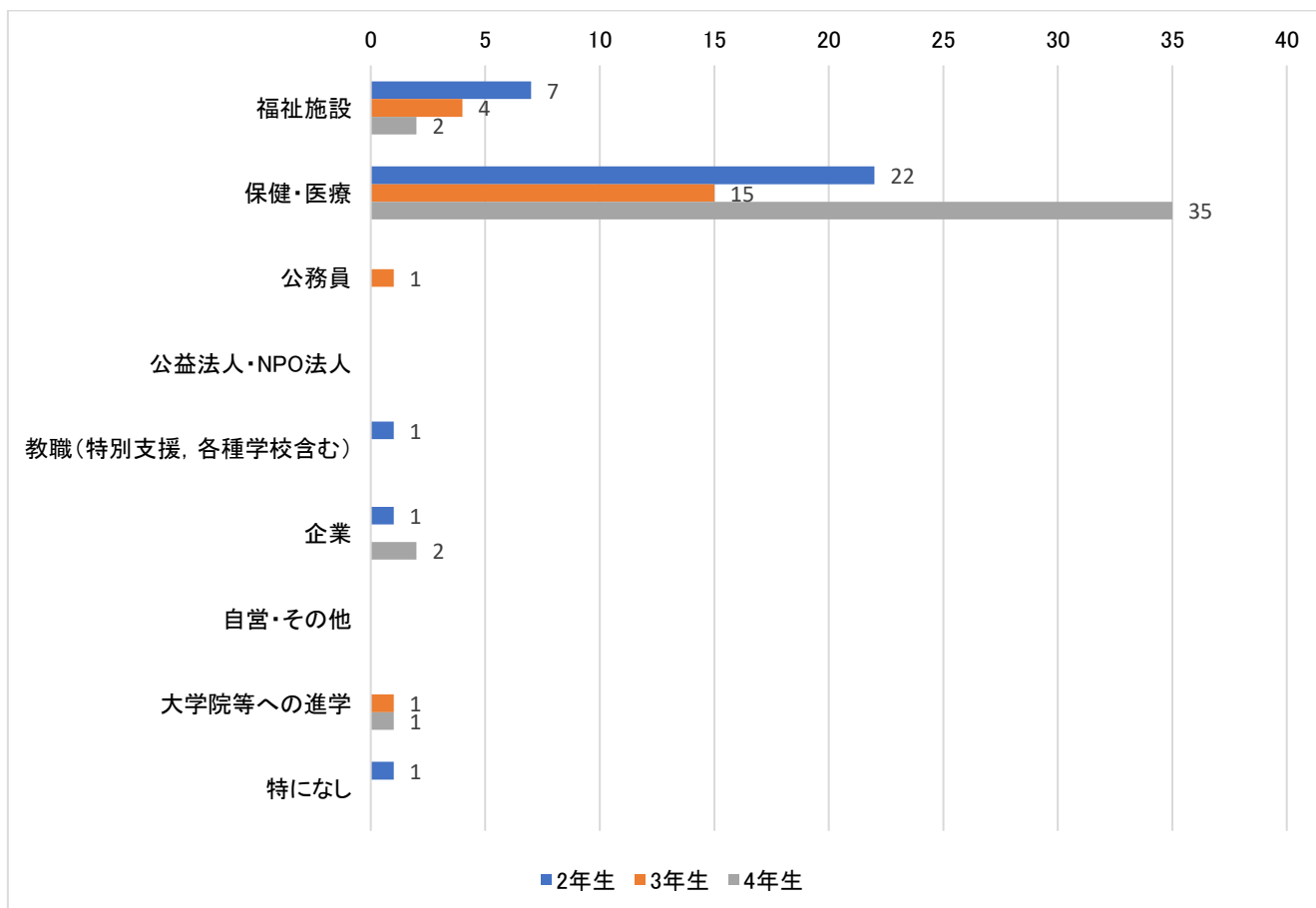


<コメント>

◆リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 6.2%であった。入学時から進路に変化があった学生は極めて少なく、92.6%の学生は入学時から進路に変化がない。

◆理学療法士になることが主たる目的の学科において、入学時から学生の進路が明確になっていることを示している。

2. 入学時に志望していた進路



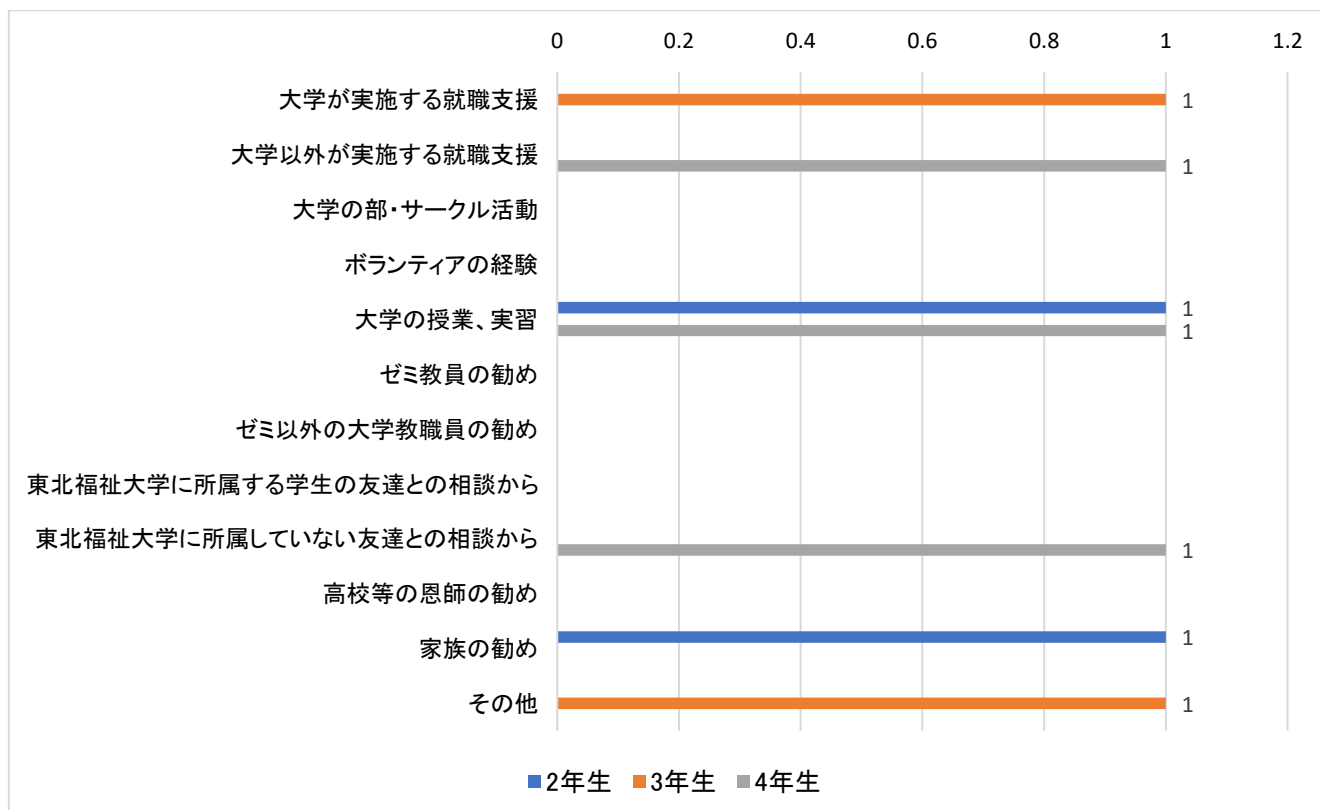
<コメント>

◆リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 88.9%、つぎに「福祉施設」16.0%となっている。

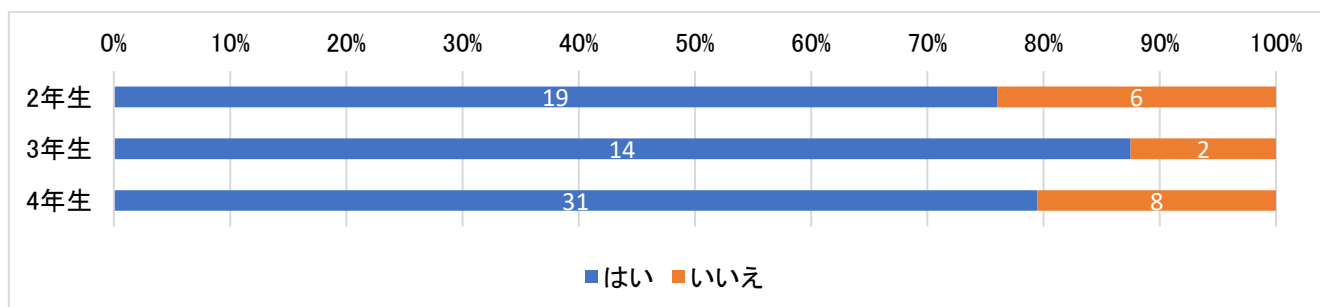
◆2～4年生すべてで入学時に「保健・医療」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆リハビリテーション学科理学療法学専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少なかった。したがって、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

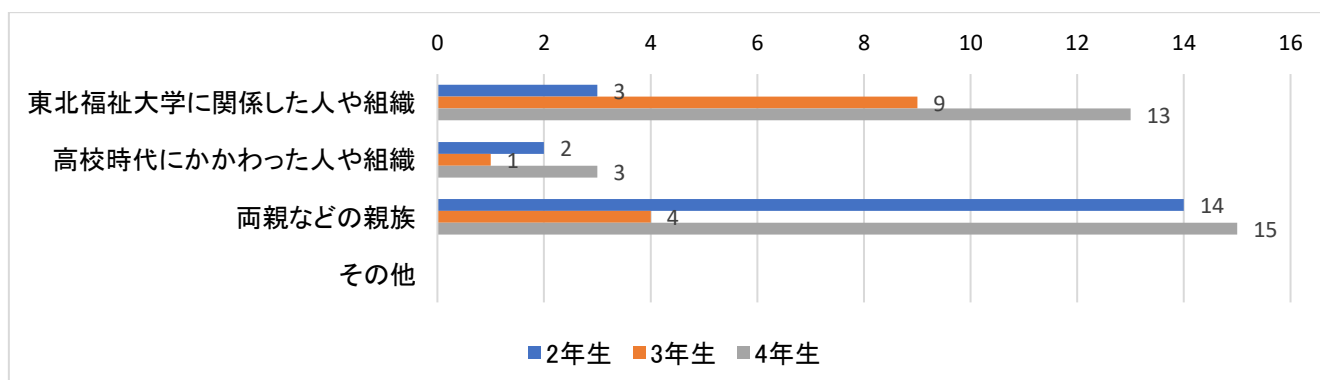
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

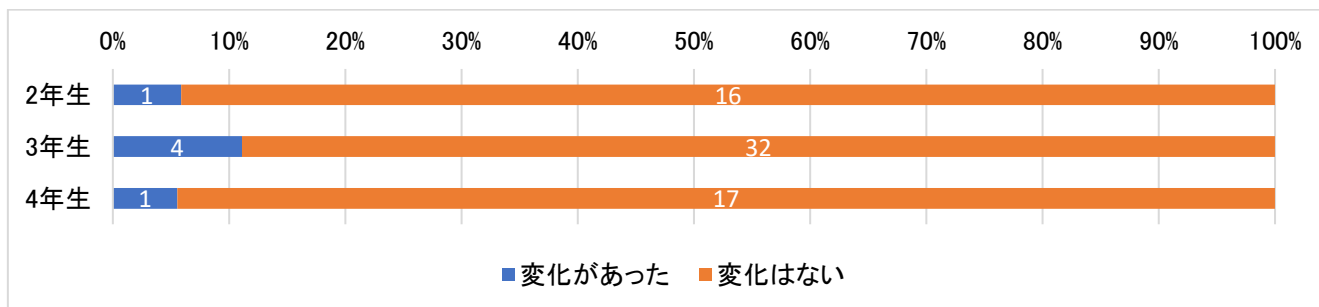


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く2名であった。
- ◆リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生は進路を選択するにあたり、約 8 割（79.0%）の学生は誰かに相談した。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多いが、「東北福祉大学に関係した人や組織」を挙げている学生も比較的多い。

(10) リハビリテーション学科 作業療法学専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

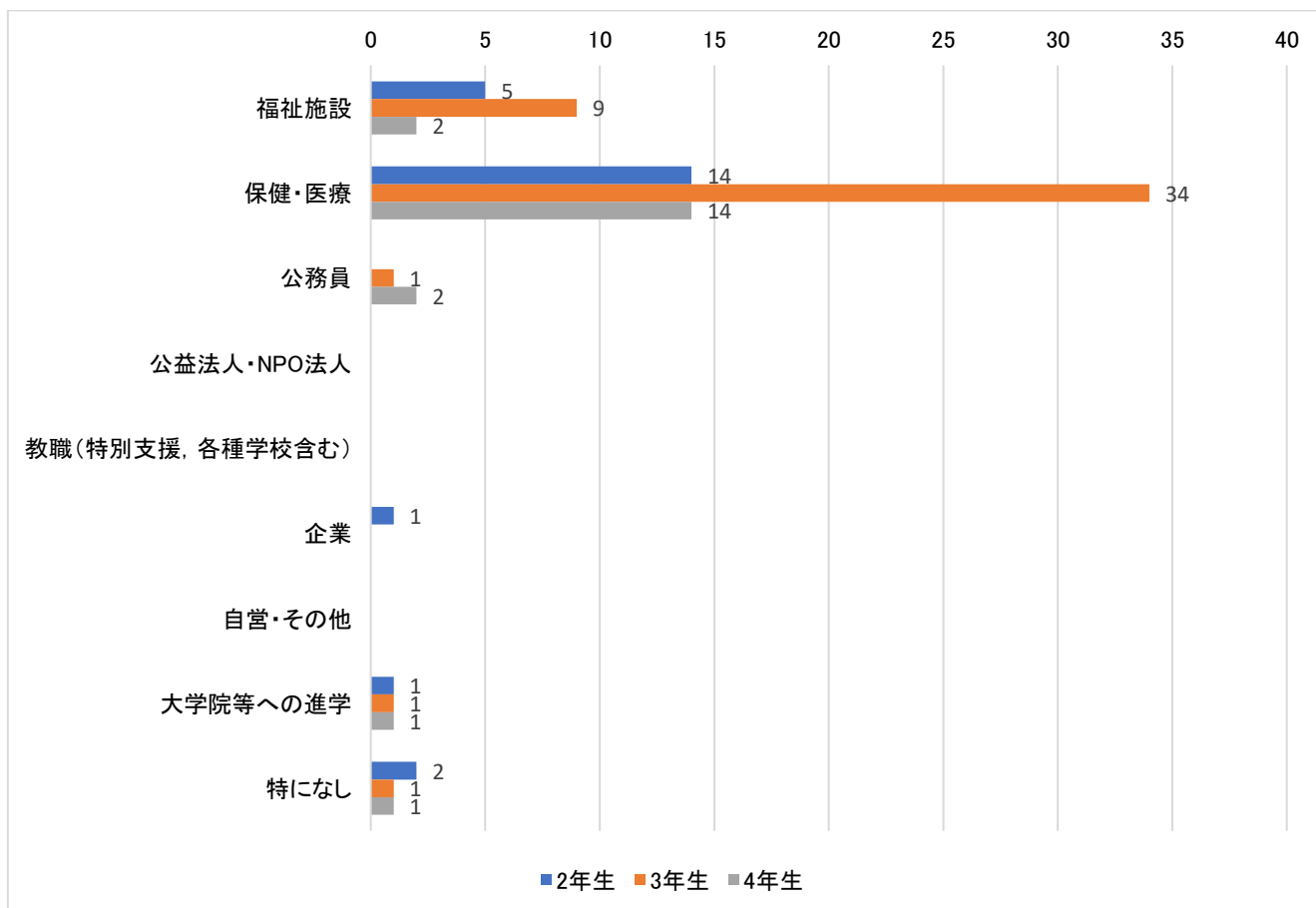


<コメント>

◆リハビリテーション学科作業療法学専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 8.5%であった。入学時から進路に変化があった学生は極めて少なく、約 9 割(91.5%)の学生は入学時から進路に変化がない。

◆作業療法士になることが主たる目的の学科において、入学時から学生の進路が明確になっていることを示している。

2. 入学時に志望していた進路



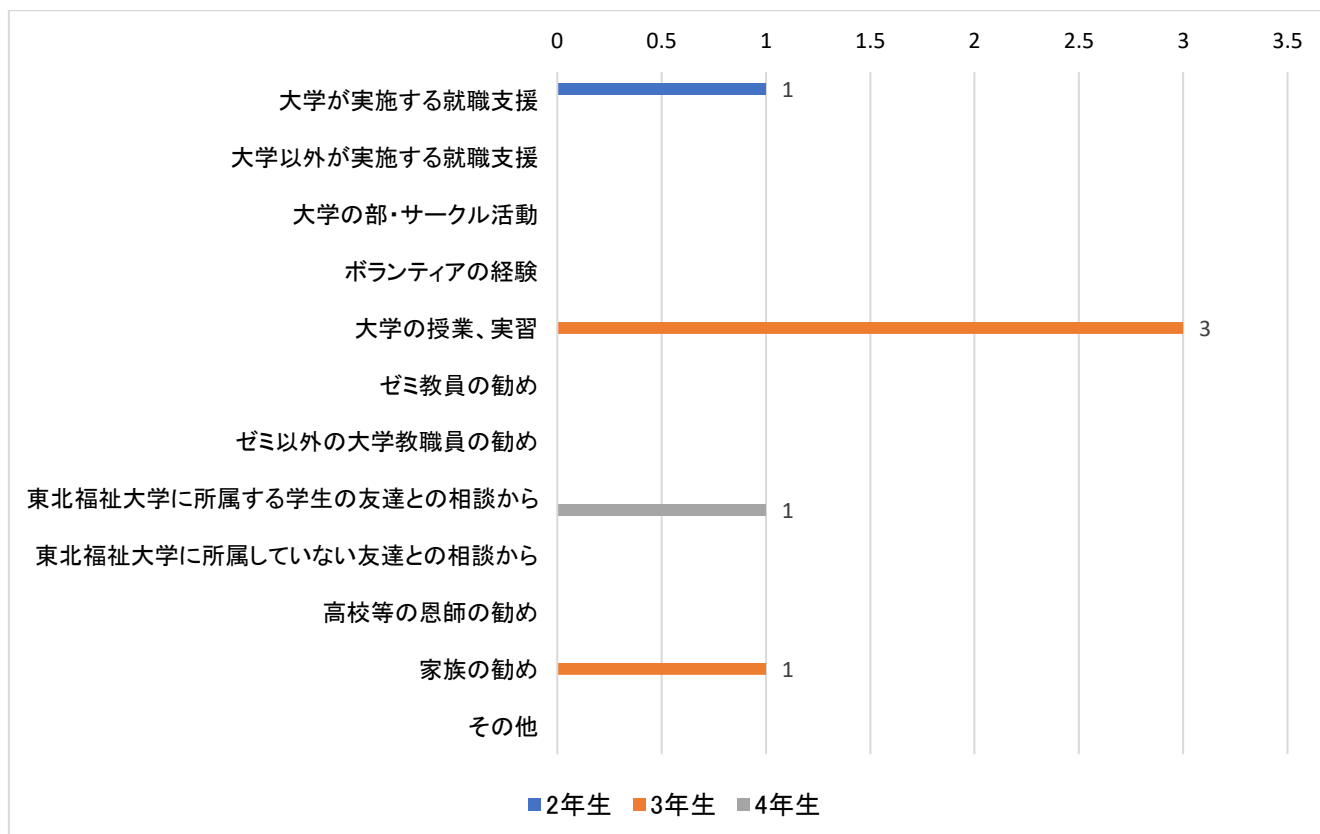
<コメント>

◆リハビリテーション学科作業療法学専攻の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 87.3%、つぎに「福祉施設」22.5%となっている。

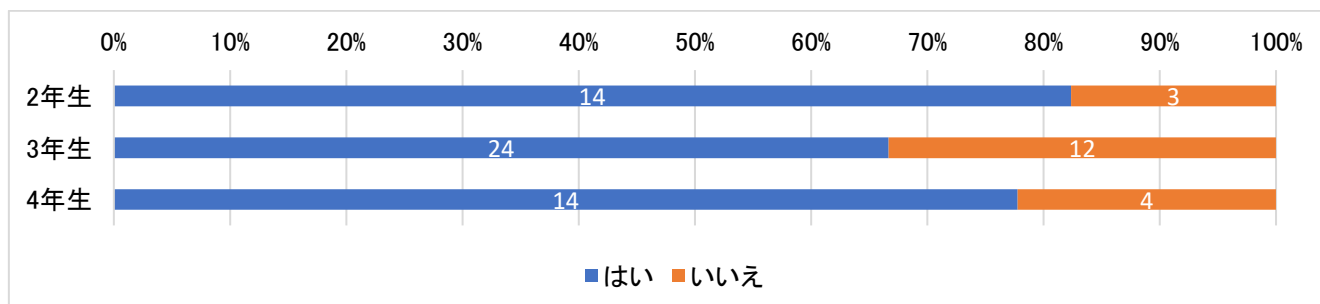
◆2～4 年生すべてで入学時に「保健・医療」を志望していた学生の割合が最も高い。

◆リハビリテーション学科作業療法学専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少なかったことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

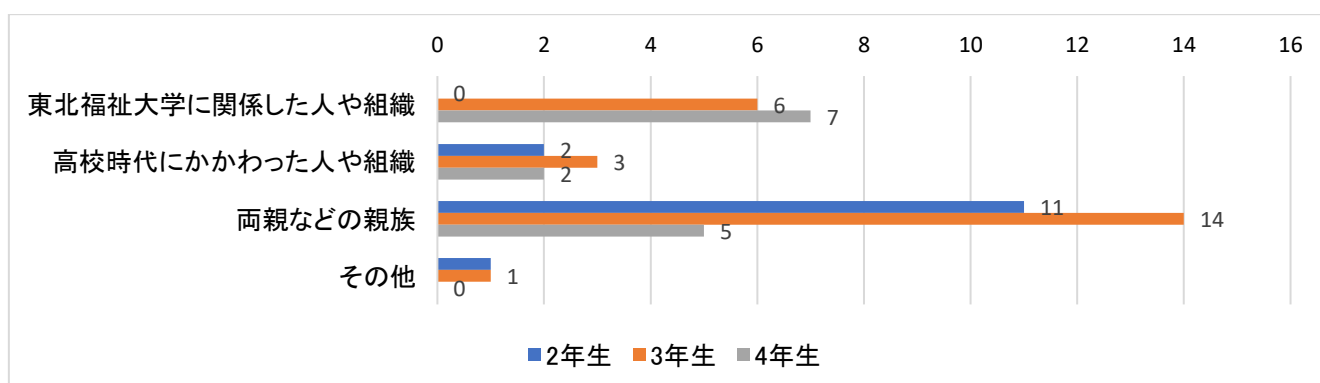
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

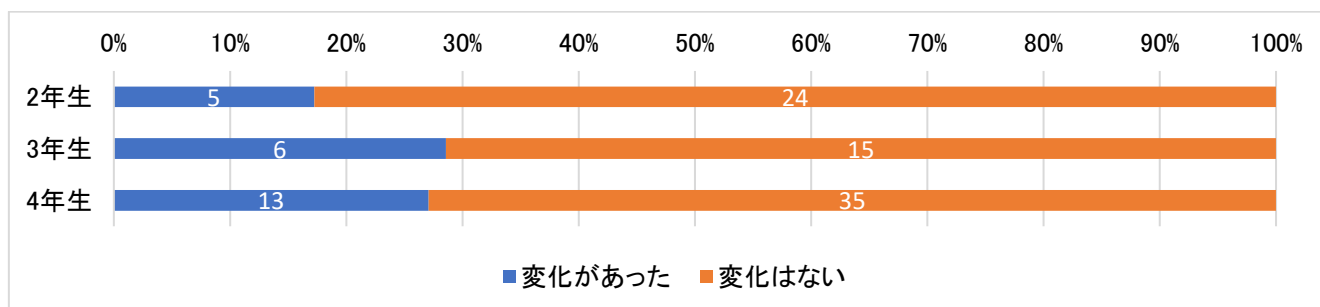


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く3名であった。
- ◆リハビリテーション学科作業療法学専攻の学生は進路を選択するにあたり、7割以上（73.2%）の学生は誰かに相談した。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多いが、「東北福祉大学に関係した人や組織」を挙げている学生も比較的多い。

(11) 医療経営管理学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

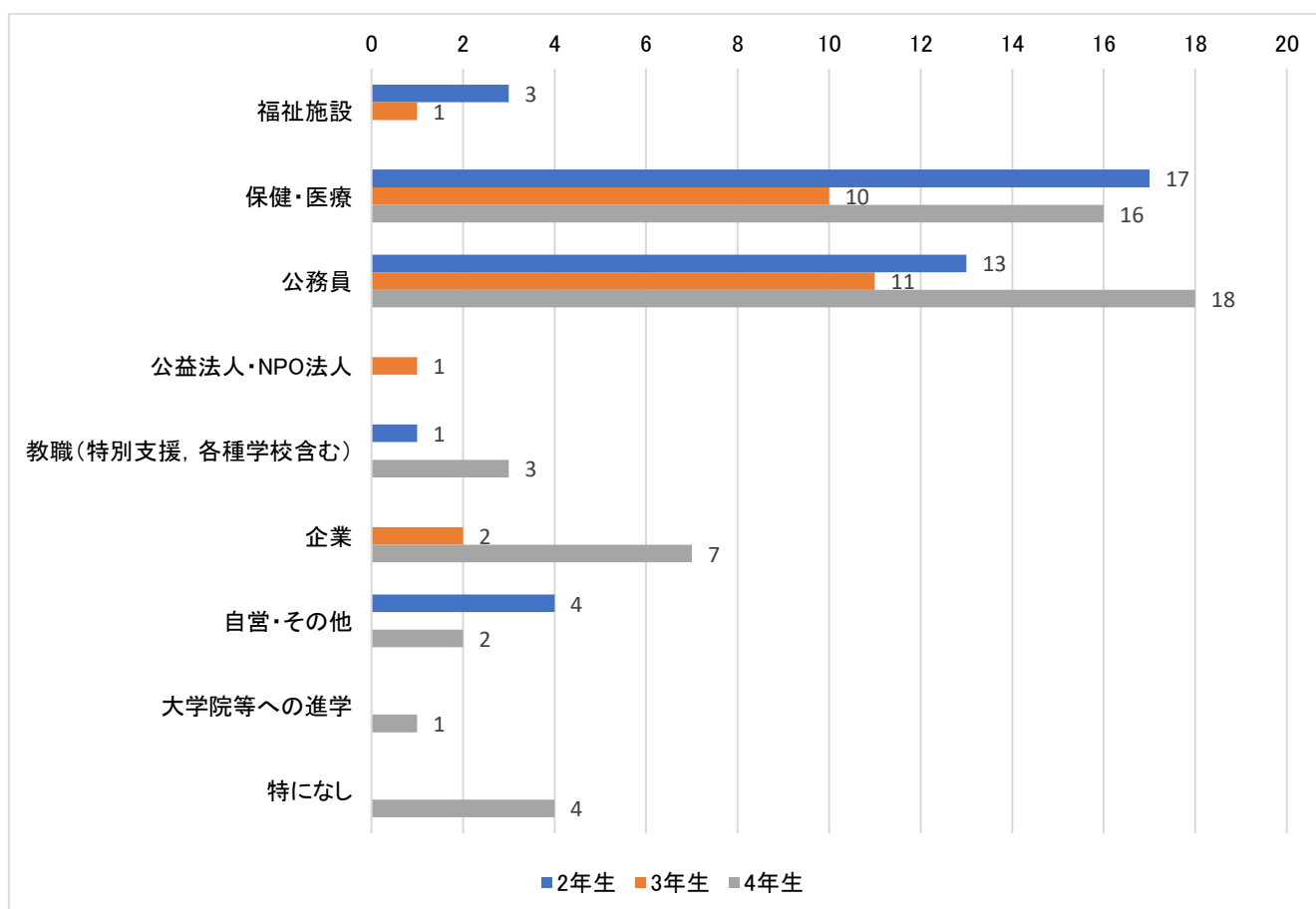


<コメント>

◆医療経営管理学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 24.2%であった。一方、入学時から進路に変化がなかった学生は 74.7%であった。

◆変化があった学生を学年別にみると、3 年生が 28.6%と高く、つぎに 4 年生 27.1%、2 年生 17.2%の順であった。

2. 入学時に志望していた進路



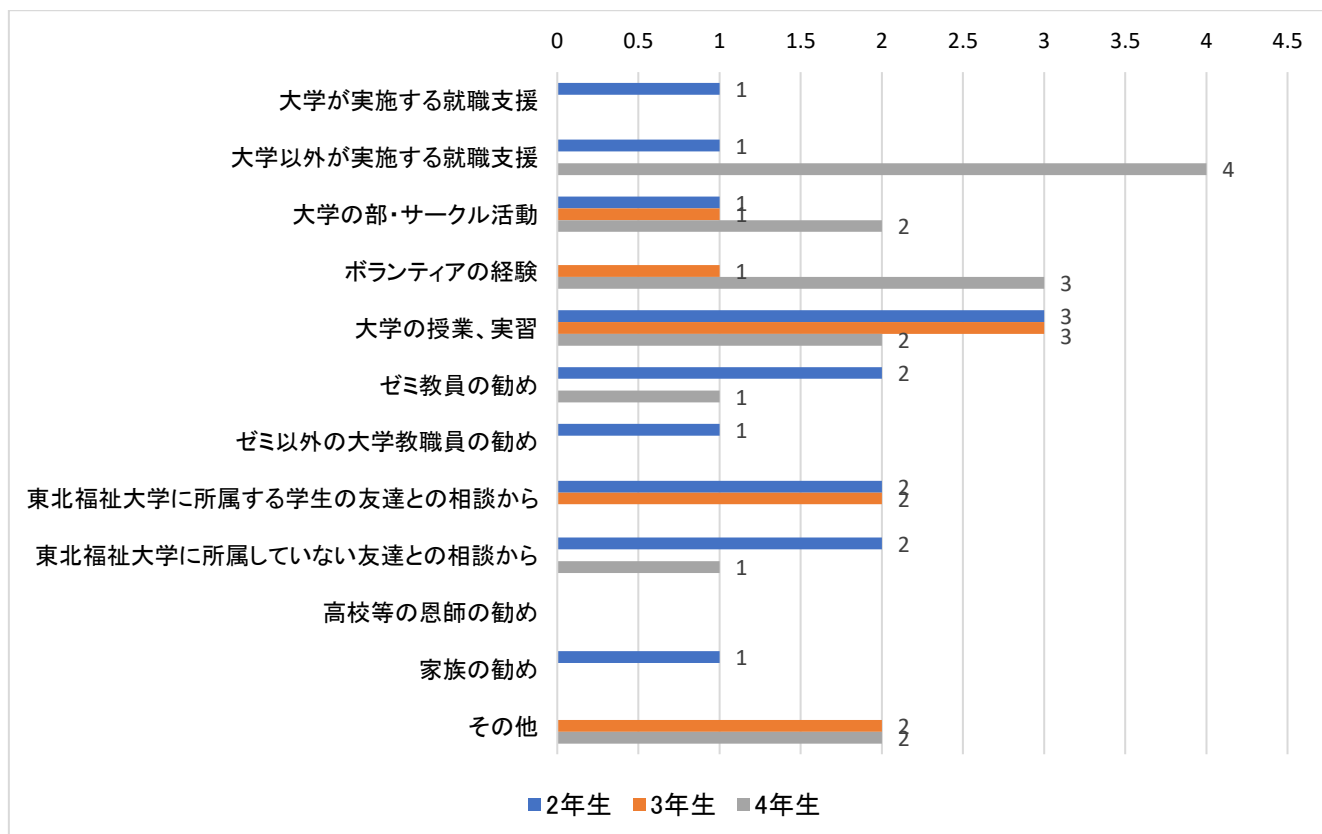
<コメント>

◆医療経営管理学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 43.4%、つぎに「公務員」42.4%であった。

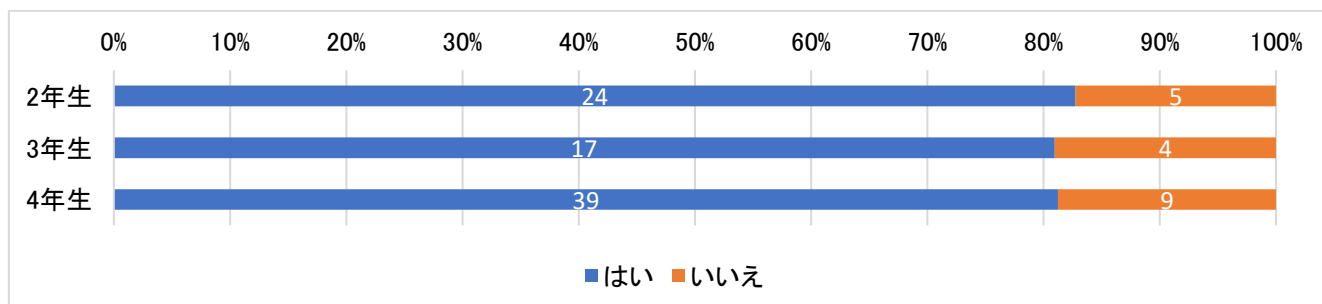
◆入学時に「保健・医療」の割合が高いのは学科の特性と言えるが、「公務員」を志望している学生の割合が 4 割を超えているのも特徴的である。

◆医療経営管理学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少なかった。このことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

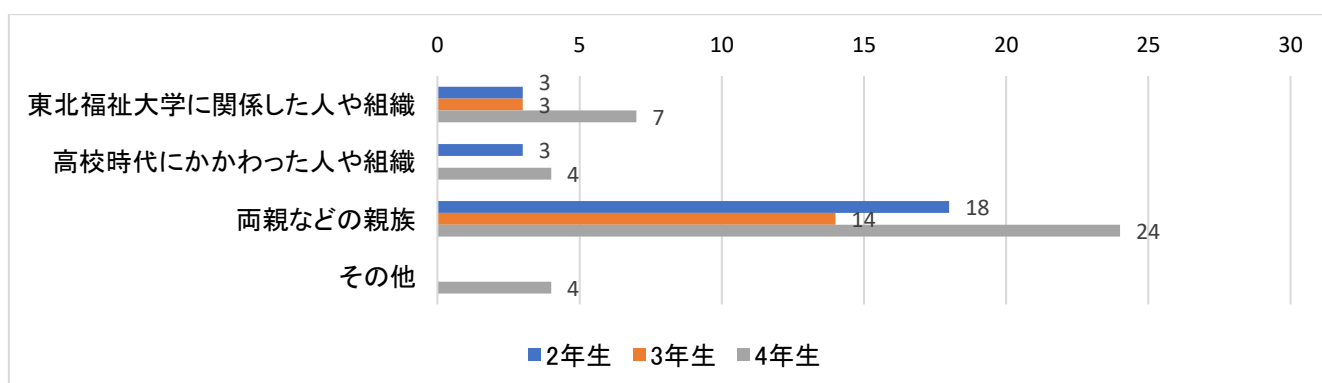
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？



<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったものを全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く8名、ついで「大学以外が実施する就職支援」5名であった。
- ◆医療経営管理学科の学生は進路を選択するにあたり、8割以上(80.8%)の学生は誰かに相談した。なお、相談の有無について学年による違いはほとんどない。
- ◆相談した(または相談したい)相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。